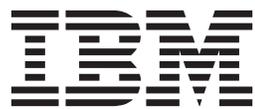
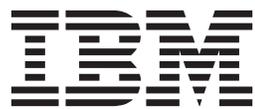


**IBM PowerLinux 7R1
(8246-L1D または 8246-L1T)
の設置**



**IBM PowerLinux 7R1
(8246-L1D または 8246-L1T)
の設置**



お願い

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、v ページの『安全上の注意』、39 ページの『特記事項』、資料「*IBM Systems Safety Notices*」マニュアル (G229-9054)、および「*IBM Environmental Notices and User Guide*」(Z125-5823) に記載されている情報をお読みください。

本製品およびオプションに電源コード・セットが付属する場合は、それぞれ専用のものになっていますので他の電気機器には使用しないでください。

本書は、POWER7 プロセッサを搭載した IBM Power Systems サーバーおよびすべての関連モデルに適用されません。

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原典： GI11-9887-01
Installing the IBM PowerLinux 7R1
(8246-L1D or 8246-L1T)

発行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担当： トランスレーション・サービス・センター

第1刷 2013.9

© Copyright IBM Corporation 2013.

目次

安全上の注意	v
IBM PowerLinux 7R1 (8246-L1D または 8246-L1T) の設置	1
8246-L1D または 8246-L1T システムの取り付けの前提条件	1
開始する前に	1
取り付けの概要	2
サーバーのラックへの取り付け	3
位置の決定	3
位置のマーク付け	4
8246-L1D または 8246-L1T の取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け	5
Installing the 8246-L1D または8246-L1T システムのラックへの取り付け	8
ケーブル・マネジメント・アームの取り付け	10
拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターの接続	13
サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ	15
サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続	15
サーバーとハードウェア管理コンソールとのケーブル接続	16
サーバーのケーブル接続と Integrated Virtualization Manager へのアクセス	18
サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続	19
電源ケーブルのシステムへの接続	19
サーバー・セットアップの完了	23
ハードウェア管理コンソールを使用する場合のサーバー・セットアップの完了	23
管理コンソールを使用しない場合のサーバー・セットアップの完了	25
参照情報	27
ラック・マウント型サーバーおよびファクトリー・ラック型サーバーの取り付け	27
ラック・マウント型サーバーの取り付け	27
ファクトリー・ラック型サーバーの取り付け	28
コンソールのセットアップに関するサポート情報	30
Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス	30
PC またはノートブックでの IP アドレスの設定	32
Linux	32
Windows XP および Windows 2000	32
Windows Vista	33
Windows7	33
IP アドレスの修正	34
共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード	34
ケーブルとシステムの配置を統合するベスト・プラクティス	35
特記事項	39
商標	40
電波障害自主規制特記事項	41
VCCI クラス A 情報技術装置	41
VCCI クラス B 情報技術装置	41
使用条件	41

安全上の注意

安全上の注意は、このガイド全体を通じて記載されています。

- **危険**の注記は、人間に致命的または極めて危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **注意**の注記は、何らかの状況が原因の、人間に危険な損傷を与える可能性のある状態について注意を促します。
- **重要**の注記は、プログラム、装置、システム、あるいはデータに損傷を与える可能性があることを示します。

ワールド・トレードの安全上の注意

国によっては、製品資料に記載される安全上の注意を自国語で提示するよう要求しています。この要求がお客様の国に適用される場合は、製品に付属の資料パッケージ (印刷された資料または DVD で、あるいは製品の一部として) に安全上の注意についての文書が含まれます。この文書には、英語原典に準拠した、各国語による安全上の注意が記載されています。この製品の取り付け、操作、または保守のために英語の資料をご使用になる場合は、まず、関連している安全上の注意についての文書をよくお読みください。また、英語版資料の安全上の注意が明確に理解できない場合も、必ずこの文書を参照してください。

安全上の注意についての文書の差し替え版または追加のコピーについては、IBM ホットライン (1-800-300-8751) に連絡して入手することができます。

レーザーに関する安全上の注意

IBM® サーバーは、レーザーまたは LED を使用する、光ファイバー・ベースの I/O カードまたはファイチャーを使用することができます。

レーザーに関する準拠

IBM サーバーは、IT 装置ラックの内部または外部に取り付けることができます。

危険

システムまたはその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

電源ケーブルや電話線、通信ケーブルからの電圧および電流は危険です。感電を防ぐために次の事項を守ってください。

- 電源と装置を接続する場合は、必ず IBM 提供の電源コードを使用してください。IBM 提供の電源コードを他の製品に使用しないでください。
- 電源装置アセンブリーを開いたり、保守しないでください。
- 雷雨の間はケーブルの接続や切り離し、または本製品の設置、保守、再構成を行わないでください。
- この製品は複数の電源コードを備えていることがあります。危険な電圧をすべて除去するには、すべての電源コードを取り外してください。
- すべての電源コードは正しく配線され接地されたコンセントに接続してください。コンセントがシステム定格プレートに従った正しい電圧および相回転を供給していることを確認してください。
- ご使用の製品に接続するすべての装置を、正しく配線されたコンセントに接続してください。
- シグナル・ケーブルの接続または切り離しは可能なかぎり片手で行ってください。
- 火災、水害、または建物に構造的損傷の形跡が見られる場合は、どの装置の電源もオンにしないでください。
- 取り付けおよび構成手順で特別に指示されている場合を除いて、装置のカバーを開く場合はその前に、必ず、接続されている電源コード、通信システム、ネットワーク、およびモデムを切り離してください。
- ご使用の製品または接続されたデバイスの取り付け、移動、またはカバーの取り外しを行う場合には、次の手順に従ってケーブルの接続および取り外しを行ってください。

ケーブルの切り離し手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. 電源コードを電源コンセントから取り外します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタから取り外します。
4. すべてのケーブルをデバイスから取り外します。

ケーブルの接続手順:

1. すべての電源をオフにします (別に指示される場合を除く)。
2. すべてのケーブルをデバイスに接続します。
3. シグナル・ケーブルをコネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. デバイスの電源をオンにします。

(D005)

危険

IT ラック・システムやその周辺で作業をする場合は、以下の予防措置を確認してください。

- 重量のある装置の場合、取り扱いを誤ると身体傷害または設備の損傷を引き起こす可能性があります。
- ラック・キャビネットのレベル・パッドは必ず下げておきます。
- ラック・キャビネットには必ずスタビライザー・ブラケットを取り付けてください。
- 釣り合いがとれていない機械的荷重による危険な状態を避けるため、最も重いデバイスを常に、ラック・キャビネットの下部に取り付けます。必ず、サーバーおよびオプション・デバイスはラック・キャビネットの下部側から取り付けてください。
- ラック・マウント型デバイスを棚やワークスペースとして使用しないでください。ラック・マウント型デバイスの上には何も置かないでください。



- 各ラック・キャビネットには複数の電源コードが付いていることがあります。保守する際に電源を切断するように指図された場合、ラック・キャビネットのすべての電源コードを抜いてください。
- ラック・キャビネット内のすべてのデバイスは、同一ラック・キャビネットに取り付けられている電源デバイスに接続します。あるラック・キャビネットに取り付けられているデバイスの電源コードを、別のラック・キャビネットにある電源デバイスに接続しないでください。
- 正しく配線されていない電源コンセントは、システムまたはシステムに接続されたデバイスの金属部品に危険な電圧をかける可能性があります。感電を避けるためにコンセントが正しく配線および接地されていることの確認は、お客様の責任で行ってください。

注意

- ラック内部の温度が、すべてのラック・マウント型デバイスに対する製造者推奨の周辺温度を超えるようなラック内には、装置を取り付けしないでください。
- 空気の流れが妨げられているラック内には、装置を取り付けしないでください。装置内で空気の流れのために使用される装置のいずれかの側面、前面、または背面で、空気の流れが妨げられたり減速されたりしないようにしてください。
- 回路の過負荷によって電源配線や過電流保護が破損しないように、電源回路への機器の接続には十分注意してください。ラックに正しく電源を接続するには、ラック内の機器の定格ラベルで、電源回路の総消費電力を確認してください。
- (引き出し式ドロワーの場合。) ラック・スタビライザー・ブラケットがラックに取り付けられていない場合は、ドロワーまたはフィーチャーを引き出したり、取り付けたりしないでください。一度に複数のドロワーを引き出さないでください。一度に複数のドロワーを引き出すと、ラックが不安定になる可能性があります。
- (固定式ドロワーの場合。) このドロワーは固定ドロワーなので、製造元の指定がない限り、保守のために動かさないでください。ラックからドロワーの一部または全部を引き出そうとすると、ラックが不安定になったり、ドロワーがラックから落下する可能性があります。

(R001)

注意:

ラック・キャビネット内の上の方の位置からコンポーネントを取り外すと、再配置中のラックの安定性が改善されます。格納されたラック・キャビネットを部屋または建物内で再配置するときは必ず、以下の一般ガイドラインに従ってください。

- ラック・キャビネットの上部から順に装置を取り外すことにより、ラック・キャビネットの重量を減らします。可能な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。この構成がわからない場合は、以下の手順を実行する必要があります。
 - 32U 位置以上にあるすべてのデバイスを取り外します。
 - 最も重いデバイスがラック・キャビネットの下部に取り付けられていることを確認します。
 - ラック・キャビネット内で 32U レベルより下に取り付けられたデバイス間に空の U レベルがないことを確認します。
- 再配置しているラック・キャビネットが、一組のラック・キャビネットの一部である場合は、そのスイートからラック・キャビネットを切り離します。
- 通る予定の経路を検査して、障害になる可能性があるものを取り除きます。
- 選択する経路が、搭載されたラック・キャビネットの重量を支えることができるか検査します。搭載されたラック・キャビネットの重量については、ラック・キャビネットに付属の資料を参照してください。
- すべてのドアの開口部が少なくとも 760 x 230 mm 以上であることを確認します。
- すべてのデバイス、シェルフ、ドロワー、ドア、およびケーブルが安定していることを確認します。
- 4 つのレベル・パッドが最も高い位置に上がっていることを確認します。
- 移動時にスタビライザー・ブラケットがラック・キャビネットに取り付けられていないことを確認します。
- 傾斜が 10 度を超えるスロープは使用しないでください。
- ラック・キャビネットが新しい場所に置かれたら、次の手順を実行します。
 - 4 つのレベル・パッドを下げます。
 - スタビライザー・ブラケットをラック・キャビネットに取り付けます。
 - ラック・キャビネットからデバイスを取り外してあった場合は、ラック・キャビネットの最も低い位置から最も高い位置へと格納していきます。
- 長距離の移動が必要な場合は、ラック・キャビネットを納品時のラック・キャビネットの構成に復元します。ラック・キャビネットを元の梱包材、またはそれと同等のもので梱包します。また、レベル・パッドを下げ、キャスターをパレットから離れるように持ち上げ、ラック・キャビネットをパレットにボルトで止めます。

(R002)

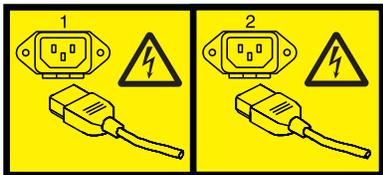
(L001)



(L002)



(L003)



または



すべてのレーザーは、クラス 1 のレーザー製品について規定している米国の保健社会福祉省連邦規則 21 副章 J (DHHS 21 CFR Subchapter J) の要件に準拠していることが認証されています。米国以外の国では、レーザーは、クラス 1 レーザー製品として IEC 60825 に準拠していることが認証されています。レーザー認証番号および承認情報については、各製品のラベルをご覧ください。

注意:

この製品には、クラス 1 のレーザー製品である CD-ROM ドライブ、DVD-ROM ドライブ、DVD-RAM ドライブ、またはレーザー・モジュールの各デバイスのうち 1 つ以上が含まれていることがあります。次の情報に注意してください。

- カバーを外さないこと。カバーを取り外すと有害なレーザー光を浴びることがあります。この装置の内部には保守が可能な部品はありません。
- 本書に記述されている以外の手順、制御または調節を行うと有害な光線を浴びることがあります。

(C026)

注意:

データ処理環境には、クラス 1 のパワー・レベルより高いレベルで作動するレーザー・モジュールを備えるシステム・リンク上で伝送する装置が含まれることがあります。この理由から、光ファイバー・ケーブルの先端、またはコンセントの差込口を覗き込まないでください。(C027)

注意:

この製品には、クラス 1M のレーザーが含まれています。光学装置を用いて直接見ないでください。

(C028)

注意:

一部のレーザー製品には、クラス 3A またはクラス 3B のレーザー・ダイオードが組み込まれています。次の点に注意してください。カバーを開くとレーザー光線の照射があります。光線を見つめたり、光学装置を用いて直接見たり、光線を直接浴びることは避けてください。(C030)

注意:

このバッテリーにはリチウムが含まれています。爆発することがありますので、バッテリーを火中に入れたり、充電したりしないでください。

次の行為は絶対にしないでください。

- ___ 水に投げ込む、あるいは浸す
- ___ 100°C (華氏 212 度) を超える過熱
- ___ 修理または分解

IBM 承認の部品のみと交換してください。バッテリーのリサイクルまたは廃棄については、地方自治体の条例に従ってください。米国では、IBM がこのバッテリーの回収プロセスを設けています。詳しくは、1-800-426-4333 にお問い合わせください。お問い合わせの前に、このバッテリー・ユニットの IBM 部品番号をご用意ください。(C003)

NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE の電源および配線の情報

以下のコメントは、NEBS (Network Equipment-Building System) GR-1089-CORE 準拠として指定された IBM サーバーに適用されます。

装置は、以下での設置に適しています。

- ネットワーク通信設備
- NEC (National Electrical Code) が適用される場所

この装置のイントラビルディング・ポートは、イントラビルディングまたは屋外に露出していない配線またはケーブル接続にのみ適しています。この装置のイントラビルディング・ポートを OSP (屋外施設) やその配線に接続されているインターフェースの金属部と接続しないでください。これらのインターフェース

は、イントラビルディング・インターフェース (GR-1089-CORE 記載のタイプ 2 ポートまたはタイプ 4 ポート) としてのみ使用するように設計されており、屋外に露出した OSP 配線とは分離する必要があります。1 次保護装置を追加しても、これらのインターフェースと OSP 配線の金属部の接続を十分に保護することはできません。

注: すべてのイーサネット・ケーブルは、シールドされ、両端が接地されている必要があります。

AC 電源システムに、外部サージ保護装置 (SPD) を使用する必要はありません。

DC 電源システムは、分離 DC 帰還 (DC-I) 設計を採用しています。DC バッテリー帰還端子をシャーシまたはフレーム・アースに接続しないでください。

IBM PowerLinux 7R1 (8246-L1D または 8246-L1T) の設置

IBM PowerLinux™ 7R1 (8246-L1D または 8246-L1T) システムを設置するには、このトピック・コレクションに概要が示されている手順に従ってください。

サーバーの取り付けを開始する前に、以下のドキュメントを読む必要があります。

- この資料の最新バージョンは、オンラインで保守されています。 オンライン・バージョンについては、概要 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7ef11/p7ef1roadmap.htm>) を参照してください。
- サーバーの設置を計画するには、システムの計画 (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7had1/p7hadplankickoff_71x_73x.htm) を参照してください。
- 管理コンソールとしてハードウェア管理コンソール (HMC) を使用する場合は、インターネット接続を使用した HMC 用のマシン・コード更新の入手および適用 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hail/area3fixeshmc.htm>) を参照してください。

8246-L1D または 8246-L1T システムの取り付けの前提条件

取り付けを開始する前に、以下のアイテムが揃っていることを確認してください。

- プラス・ドライバー
- マイナス・ドライバー
- 2 EIA 単位のスペースを備えたラック

注: ラックを設置しておく必要があります。ラックが設置されていない場合は、ラックの設置 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbf/installrack.htm>) を参照してください。

以下のコンソールのいずれか 1 つも必要です。

- ハードウェア管理コンソール (HMC): ご使用の HMC を正しいリリース (バージョン 7 リリース 7.7.0 またはそれ以降) にしておく必要があります。
- キーボードおよびマウスを接続済みのグラフィック・モニター。
- キーボードを接続したテレタイプ (TTY) モニター。

開始する前に

サーバーのラックへの取り付けの要件を理解してください。

取り付けプロセスを開始する前に、以下のステップを実行します。

1. 注文したすべてのボックスを受け取ったことを確認します。
2. 必要に応じて、サーバー・コンポーネントを取り出します。
3. 各サーバー・コンポーネントを取り付ける前に部品が揃っていることを、次のステップを実行します。
 - a. サーバーのインベントリー・リストを検索します。
 - b. 注文したすべての部品を受け取ったか確認します。

注: 注文情報は製品に付属しています。営業担当員または IBM ビジネス・パートナーからも注文情報を入手できます。

部品の間違い、欠落または損傷があった場合は、以下のいずれかに連絡してください。

- お客様の IBM 販売店。
- IBM Rochester manufacturing automated information line: 1-800-300-8751 (米国のみ)。
- Directory of worldwide contacts (世界各地の連絡先のディレクトリー) (<http://www.ibm.com/planetwide>). 地域を選択して、サービスおよびサポート窓口の情報を表示してください。

取り付けの概要

スライド・レールおよびケーブル・マネジメント・アームのオプションを使用してサーバーをラックに取り付ける方法を説明します。

サーバーをラックに取り付けるには、以下の手順を実行します。

1. 3 ページの『サーバーのラックへの取り付け』
2. 15 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』
3. 23 ページの『サーバー・セットアップの完了』

サーバーのラックへの取り付け

設置済みのラックがある場合、サーバーをラックに取り付けて、ケーブル・マネジメント・アームをセットアップする必要があります。

注: ラック取り付けテンプレートがある場合、それを使用してこの作業を実行します。

位置の決定

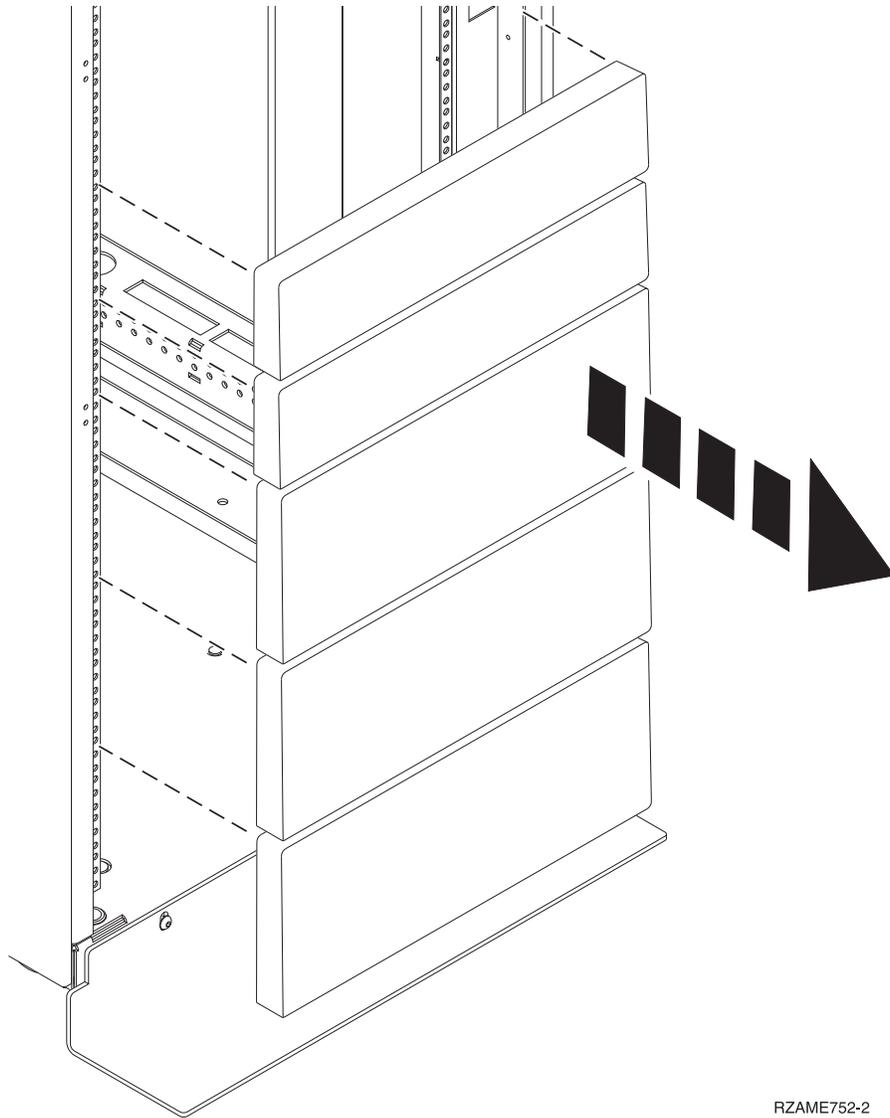
システムを取り付けるラック内の位置を決定することが必要になる場合があります。 次の手順を使用して、この作業を実行します。

システム装置をラックに取り付ける前に、次のステップを実行します。

1. ラックの安全上の注意 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbf/racksafety.htm>) をお読みください。
2. システム装置の設置場所を計画します。大きくて重いシステム装置をラックの下段に設置します。

このシステム装置は、2 EIA (Electronic Industries Alliance) 単位の高さです。 1 EIA 単位は、44.45 mm (1.75 インチ) の高さです。 ラックには、1 EIA 単位の高さにつき 3 つの取り付け穴があります。 したがって、このシステム装置の高さは 88.9 mm (3.5 インチ) で、ラック内の 6 個の取り付け穴を占有します。

3. 4 ページの図 1 に示すように、必要な場合、装置を配置するラック・エンクロージャー内へアクセスできるように、フィラー・パネルを取り外します。
4. 必要な場合、前面および背面のラック・ドアを取り外します。



RZAME752-2

図1. フィラー・パネルの取り外し

位置のマーク付け

取り付け位置にマークを付けることが必要な場合があります。次の手順を使用して、この作業を実行します。

取り付け位置にマークを付け、ラックにクリップ・ナットを取り付けるには、次の手順を実行してください。

1. ラック前面に向かって右側から作業を行い、システムで使用する最下部 EIA 単位の位置を見つけます。EIA 位置をメモします。5 ページの図2 に示すように、テープ、マーカー、または鉛筆を使用して、この EIA 単位の下部の穴に **A** とマークを付けます。また、ラックの後部から見えるようにラックにマークを付けます。

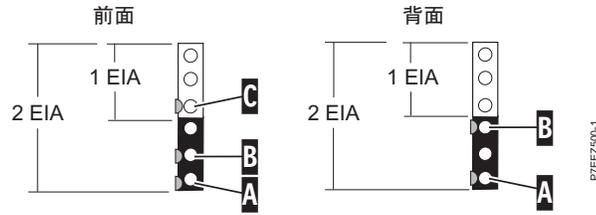


図2. ラック・フレームの前面および背面の穴のマーキング

2. 図2 に示すように、**A** というマークによって識別されている穴から始め、1 つ上の穴に **B** という 2 番目のマークを付けます。ラックの背面からも見えるように、ラックにマークを付けます。
3. 図2 に示すように、**B** というマークによって識別されている穴から始め、2 つ上の穴に **C** という 3 番目のマークを付けます。
4. ラックの前面に向かって左側から作業を行い、拡張装置で使用する下部の EIA 単位を見つけます。この EIA 単位の下部の穴に (**A**) とマークを付けます。
5. ラックの左側に対して、ステップ 2 から 3 を繰り返します。
6. ラックの背面に向かって右側から作業を行い、ステップ 1 (4 ページ) でメモした下部の EIA 単位を見つけます。この EIA 単位の最下部の穴の次に **A** というマークを付けます。マークはラックの前面からも見えるように付けます。
7. 図2 に示すように、**A** というマークによって識別されている穴から始め、2 つ上の穴に **B** という 2 番目のマークを付けます。
8. ラックの背面に向かって左側から作業を行い、拡張装置で使用する下部の EIA 単位を見つけます。この EIA 単位の下部の穴に **A** とマークを付けます。
9. ラックの左側に対して、ステップ 7 を繰り返します。

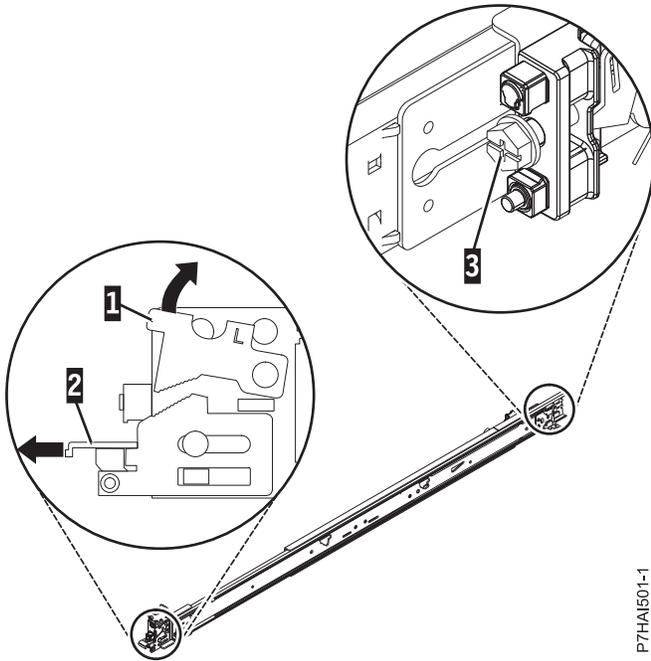
8246-L1D または 8246-L1T の取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け

取り付け用ハードウェアをラックに取り付けることが必要な場合があります。このセクションの手順を使用して、この作業を実行してください。また、このセクションには、関連するハードウェア・コンポーネントの図も記載されており、それらのコンポーネント間の相互関係が示されています。

重要: レールに不具合が生じたり、操作員とシステム装置に危険が生じるのを避けるために、ご使用のラック用の適切なレールと取り付け具を使用していることを確認してください。ご使用のラックに支持フランジ用の四角い穴または支持フランジ用のねじ穴がある場合、レールと取り付け具が、ラックで使われている支持フランジ用の穴に一致することを確認してください。一致しないハードウェアをワッシャーやスペーサーを使用して取り付けないでください。ご使用のラックに適合したレールと取り付け具が装備されていない場合は、お客様の IBM 販売店にお問い合わせください。

ラック取り付け用ハードウェアをラックに取り付けるには、以下のステップを実行します。

1. それぞれのスライド・レールには、**R** (右) または **L** (左) とマークが付けられています。左側のスライド・レールを選んでラックの後部に置き、前もってマークしてある、選択済みの **U** を見つけます。
2. 前面のロックング・タブ (**1**) を押し上げ、レール前面の前面ラッチ (**2**) を引き出します。次に、6 ページの図 3 に示すように、レールの後部からねじ (**3**) を取り外します。

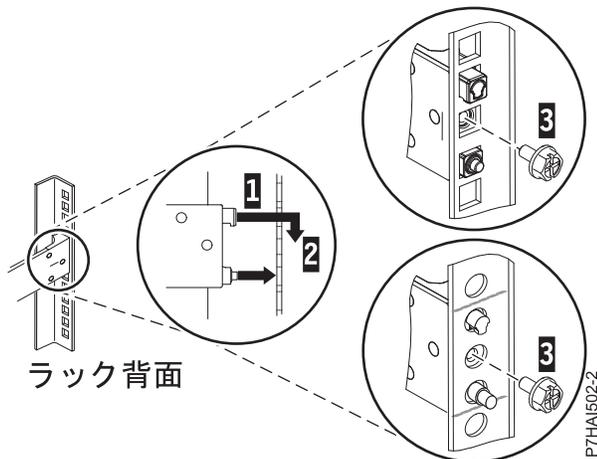


PTHAI601-1

図3. 前面ラッチを開けて後部のねじを取り外す

3. スライド・レールの後部にある 2 つのピンの位置を、前もってマークしてある、選択済みの U の上部と下部の 2 つの穴に合わせます。図 4 に示すように、スライド・レールを手前に引き、2 つのピンをラックの穴に挿入して (1)、スライド・レールを下方へ降ろし (2)、上部ピンのフック機構をはめ込みます。2 つのピンがラックの穴から突き出ていることを確認してから、次の手順に進んでください。

注: スライド・レールの固定ピンは、丸穴あるいは角穴のラック・モデルのいずれかに対応します。



PTHAI602-2

図4. ピンをラック後部の穴に位置合わせしてはめ込む

4. 7 ページの図 5 に示すように、ステップ 2 (5 ページ) で取り外したねじを再取り付けします。

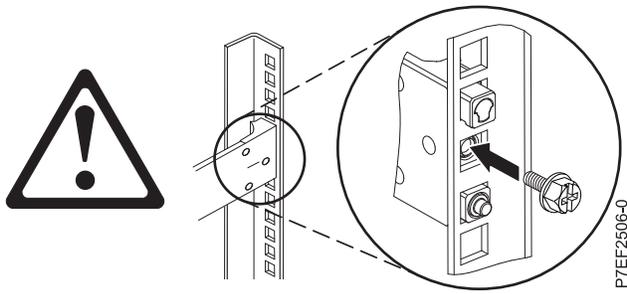
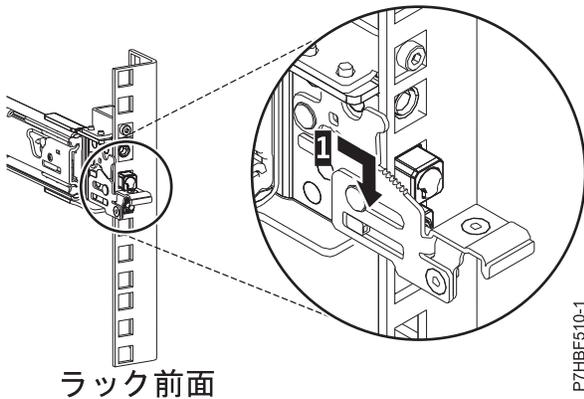


図5. ねじの再取り付け

重要: ねじはデバイスにしっかり取り付ける必要があります。

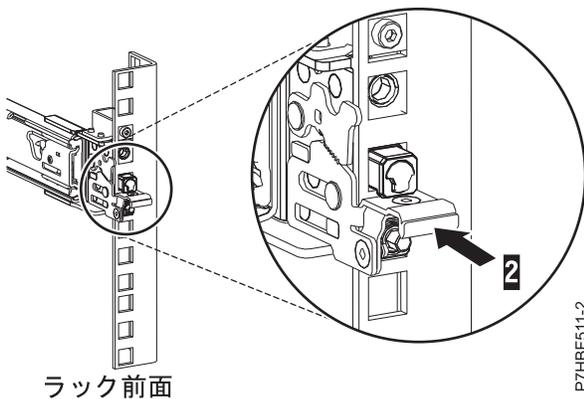
5. ラックの前面に戻ります。スライド・レールの前面のラッチがまだ開いていることを確認します。ステップ 1 (5 ページ) を参照してください。
6. スライド・レールを前方に引き、レール前部の 3 つのピンを、前もってマークしてある選択済みの U の穴に挿入します。図 6 に示すように、スライド・レールを下方へ降ろし (1)、中間ピンのフック機構をはめ込みます。



ラック前面

図6. ピンが装着されたラック前面レール

7. 図7 に示すように、スライド・レールを手前に引くときの、3 つのピンがすべてラックの穴から突き出ていることを確認し、前部ラッチ (2) を奥まで完全に押し込みます。



ラック前面

図7. ラッチが装着されたラック前面レール

注: レールの位置変更が必要な場合、前部ラッチ (2) を解放し、下部の青色のピンを押しながら、レールを後方に向けて押してラックから解放します。

8. 1 (5 ページ) から 7 (7 ページ) までのステップを繰り返し、右のレールをラックに取り付けます。
9. 続けて『Installing the 8246-L1D または8246-L1T システムのラックへの取り付け』に進みます。

Installing the 8246-L1D または8246-L1T システムのラックへの取り付け

このトピックの手順を使用して、8246-L1D または 8246-L1T システムをラックに取り付けてください。

注意:

このシステムでは、ラックにシステムを取り付けるのに 2 人の人員が必要です。

8246-L1D または 8246-L1T システムをラックに取り付けるには、次の手順を実行してください。

1. システム後部および前部の配送カバーを取り外します (存在する場合)。
2. 2 回カチッと音がする位置までスライド・レールを前方に (1) 引き出します。サーバーを慎重に持ち上げたら、スライド・レール上でサーバーを傾けて位置合わせし、サーバー背面のくぎの頭 (2) がスライド・レールの後部スロット (3) と揃うようにします。後部のくぎの頭が 2 つの後部スロットに入るまでサーバーをスライドさせます。次に、残りのくぎの頭がスライド・レールの他のスロットにはまるまで、サーバーの前部 (4) をゆっくりと下ろします。図 8 に示すように、前部ラッチ (5) がくぎの頭の上をスライドすることを確認します。

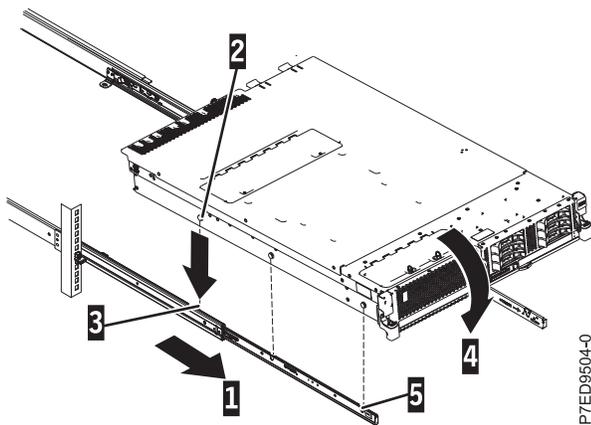


図 8. スライド・レールの引き出しおよびサーバーのくぎの頭とレールのスロットとの位置合わせ

3. 9 ページの図 9 に示すように、スライド・レールにある青色のリリース・ラッチ (1) を引き上げ、サーバー (2) を所定の位置に収まるまでラックの中に押し込みます。

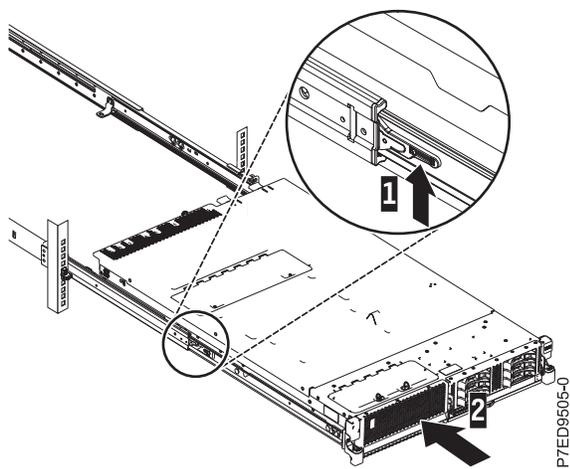


図9. リリース・ラッチとサーバー

4. ケーブル接続する前に、システム装置の背面左側にある配送用ブラケットを取り外す必要があります。配送用ブラケットの取り外しを行うには、次のステップを実行します。
 - a. 図10に示すように、2本のねじ(A)を取り外します。

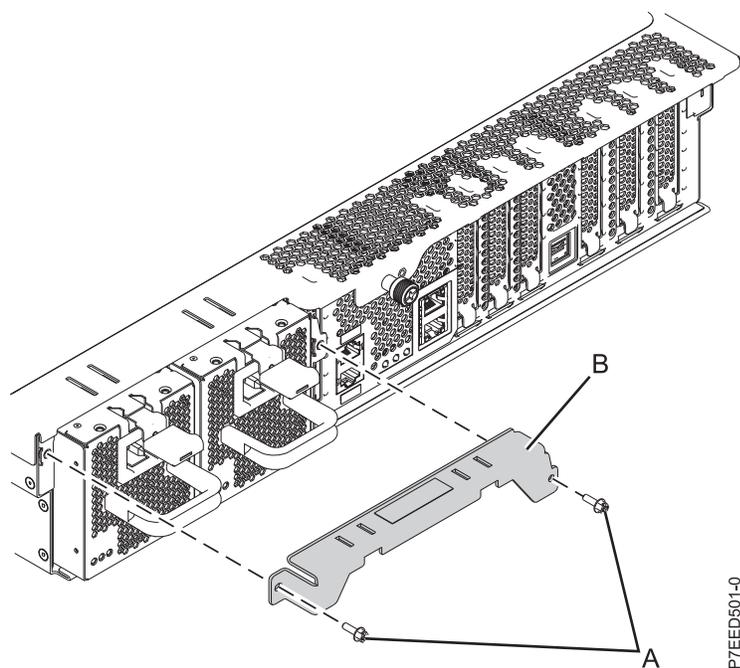


図10. 出荷用ブラケットの取り外し

- b. ブラケットをシステム(B)から引き抜いて破棄します。
 - c. 電源装置をシステム内に押し戻し、電源装置が完全に収まり、ラッチが掛けられていることを確認します。
5. 続けて10ページの『ケーブル・マネジメント・アームの取り付け』に進みます。

ケーブル・マネジメント・アームの取り付け

ケーブル・マネジメント・アームを取り付ける場合は、このタスクの手順を使用します。

注: ケーブル・マネジメント・アームの取り付け手順には、次の部品の組み立てが含まれます。

- A** サポート・アーム
- B** ケーブル・マネジメント停止ブラケット
- C** 取り付け金具
- D** ケーブル・マネジメント・アーム
- E** 拡張ブラケット

次の図は、ケーブル・マネジメント・アームの部品を組み立てる前の各部品の相対位置を示しています。

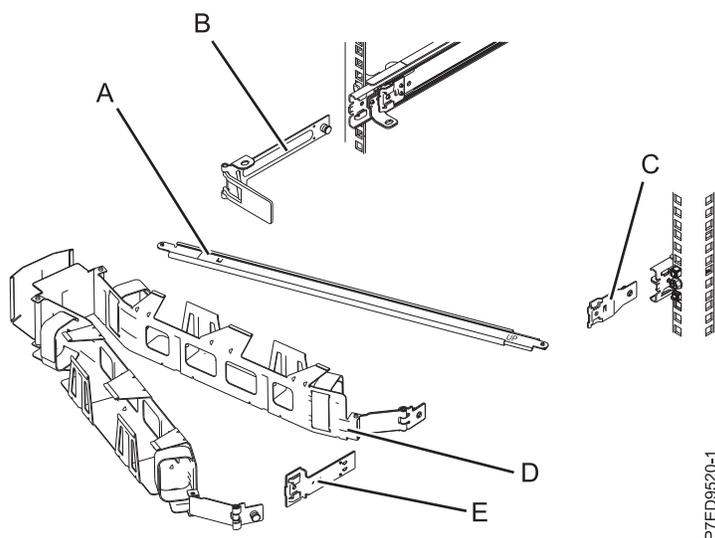


図 11. 組み立て前のケーブル・マネジメント・アームの部品の相対位置

ケーブル・マネジメント・アームを取り付けるには、次の手順を実行してください。

1. 図 12 に示すように、ケーブル・マネジメント・アームは、サーバーの背面に向かって、右側に取り付ける必要があります。サポート・アームの一方の端 (A) を、右側のスライド・レール (1) に接続し、サポート・アームのもう一方の端をラックの左側 (2) に向かって回転できるようにします。

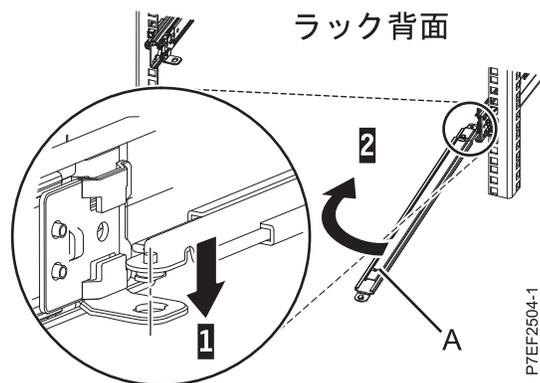


図 12. サポート・アームの接続

2. L 字型のケーブル・マネージメント停止ブラケット (B) の下部内側の隅にある穴を見つけます。 サポート・アームの接続されていない端を、その先端下側のロックング・タブがブラケットの穴に合うように、位置合わせします。 図 13 に示すように、タブを穴 (1) に押し込み、ブラケット (2) を回して、サポート・アームに固定します。

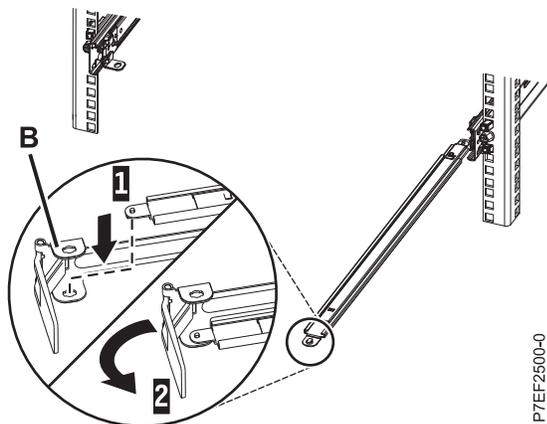


図 13. ケーブル・マネージメント停止ブラケットをサポート・アームに固定する

3. サポート・アームの反対側をスライド・レールの後部に取り付けるには、図 14 に示すように、ブラケット (B) を左側のスライド・レールに滑り込ませ、バネ式のラッチが所定の位置に収まるまで、スライドさせます。

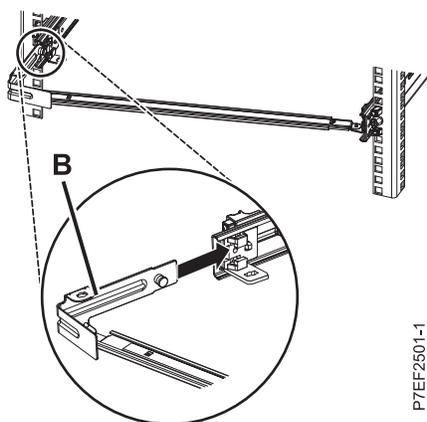


図 14. ピンを引き出してブラケットをスライド・レールに取り付ける

4. 拡張ブラケット (E) を右側のスライド・レールにスライドします。 12 ページの図 15 に示すように、バネ式のラッチが所定の位置に収まるまで、ブラケットをスライド・レールに押し込みます。

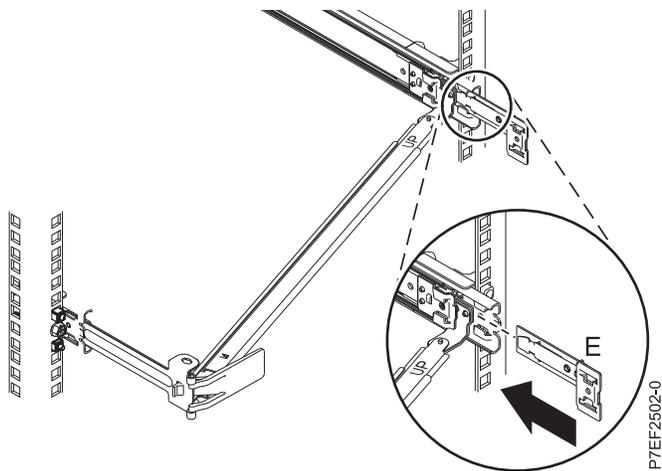


図 15. 拡張ブラケットをスライド・レールに取り付ける

5. 図 16 に示すように、取り付け金具 (C) を右側スライドの内側のスロットに接続し、バネ式のピンが所定の位置に収まるまで取り付け金具 (C) をスライド・レールに滑り込ませます。

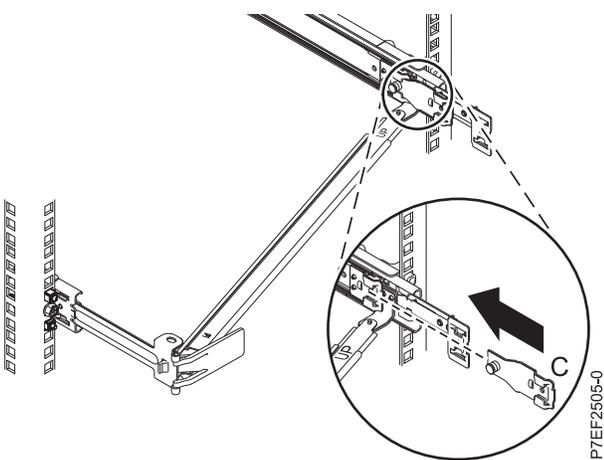


図 16. 取り付け金具をスライド・レールに取り付ける

6. ケーブル・マネジメント・アーム (D) をサポート・アーム (A) に載せます。1 番目のケーブル・マネジメント・アームのタブを取り付け金具 (C) スロットに滑り込ませます (1)。バネ式のラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。もう一方のケーブル・マネジメント・アームのタブを、右側のスライド・レールの外側の拡張ブラケット (E) に滑り込ませます (2)。13 ページの図 17 に示すように、バネ式のラッチが所定の位置に収まるまで、タブを押し込みます。

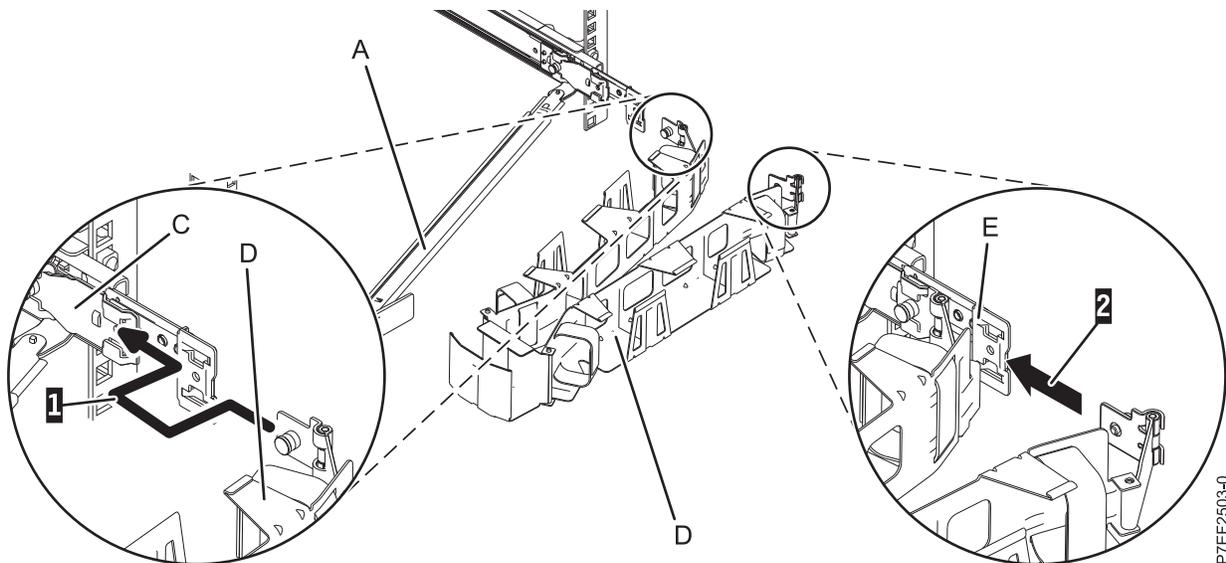


図 17. ケーブル・マネジメント・アームの接続

7. 取り付けに使用可能なコンソール、インターフェース、端末を選んで、サーバーにケーブル接続してください。詳細については、15 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』を参照してください。
8. 図 18 に示すように、電源コードおよびその他のケーブル (必要な場合は、キーボード、モニター、およびマウスのケーブルを含む) を、ケーブル・マネジメント・アーム (1) 上に配線します。電源コードを除くすべてのケーブルをサーバーの背面に接続します。コードおよびケーブルをケーブル・タイまたは面ファスナーで固定します。

注: ケーブル・マネジメント・アームが動いたときにケーブルが張りすぎないように、すべてのケーブルに遊びを持たせます。

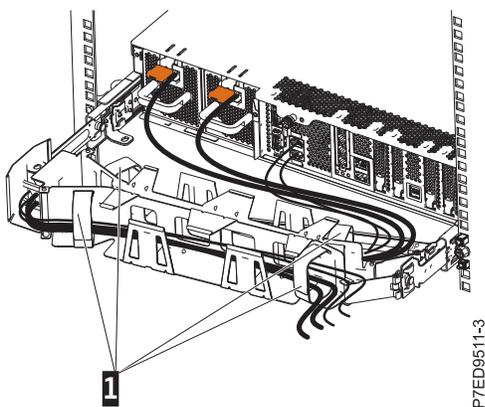


図 18. 電源コードの配線と接続

9. 所定の位置に収まるまで、サーバーをラックの中に滑り込ませます。

拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターの接続

拡張装置およびディスク・ドライブのシステム装置への接続および構成についての説明には、この情報を使用してください。

1. 拡張装置の接続については、エンクロージャーおよび拡張装置 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7ham/expansionunit.htm>)を参照してください。
2. ディスク・ドライブ装置の接続については、ディスク・ドライブ (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hall/p7halkickoff.htm>)を参照してください。
3. PCI アダプターの接続については、PCI アダプター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hakl/p7hak_pciadapters_front_71x_73x1.htm)を参照してください。

サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ

コンソール、モニター、またはインターフェースを選択する際は、論理区画を作成するかどうか、1 次区画にどのようなオペレーティング・システムをインストールするか、および論理区画の 1 つにバーチャル I/O サーバー (VIOS) をインストールするかどうかを考慮します。

注: ラックに事前取り付けされたシステムまたは拡張装置を注文した場合、ケーブル接続する前に、システムまたは拡張装置の背面左側にある配送用ブラケットを取り外す必要があります。

次の表で、コンソール、インターフェース、または端末装置のいずれかを選択してください。

表 1. 使用可能なコンソール・タイプ

コンソール・タイプ	オペレーティング・システム	論理区画	必要なケーブル	ケーブル接続およびセットアップ手順
ASCII 端末	Linux または VIOS	VIOS では可、Linux では不可	ヌル・モデムが装備されたシリアル・ケーブル	『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』
ハードウェア管理コンソール	Linux または VIOS	可	イーサネット (またはクロスケーブル)	16 ページの『サーバーとハードウェア管理コンソールとのケーブル接続』
VIOS の Integrated Virtualization Manager	Linux	可	シリアル・ケーブル	18 ページの『サーバーのケーブル接続と Integrated Virtualization Manager へのアクセス』
キーボード/ビデオ/マウス (KVM)	Linux または VIOS	可	KVM 用のモニター・ケーブルと USB ケーブル	19 ページの『サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続』

サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続

論理区画を作成しない場合は、ASCII 端末を使用して Linux あるいは VIOS オペレーティング・システムが稼働しているサーバーを管理することができます。ASCII 端末から Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスして、追加のインストール作業を実行できます。

ASCII 端末は、シリアル・リンクを介してサーバーに接続されます。ASMI への ASCII インターフェースは、Web インターフェース機能のサブセットを提供します。ASMI インターフェース用の ASCII 端末は、システムがスタンバイ状態のときにのみ使用可能です。初期プログラム・ロード (IPL) 中またはランタイムには使用できません。

注: ASMI 端末へのシリアル接続を使用している場合は、変換ケーブルを使用する必要があります。このケーブル (部品番号 46K5108) は、ASCII 端末の 9 ピン D シェル・コネクタを、システムの RJ45 シリアル・ポート・コネクタに変換するために使用されます。システム上のコネクタの位置について詳

しくは、8246-L1D および 8246-L1T の位置 (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7ecsl/p7ecsllocations_8231e1c.htm) を参照してください。

ASCII 端末をサーバーにケーブル接続するには、次の手順を実行してください。

1. ヌル・モデムに装備されたシリアル・ケーブルを使用して、ASCII 端末をサーバー背面のシステム・コネクタ 1 (デフォルトの P1-T1) またはシステム・コネクタ 2 (P1-T2) に接続します。
2. サーバーの電源コードを電源に接続してください。
3. コントロール・パネルの緑色のライトが明滅し始めるまで待ちます。
4. ASCII 端末が以下の一般的な属性に設定されていることを確認します。

これらの属性は診断プログラム用のデフォルト設定です。端末がこれらの属性に従って設定されていることを確認してから、次のステップに進みます。

表 2. 診断プログラム用のデフォルトの設定値

一般のセットアップ属性	3151 /11/31/41 の設定	3151 /51/61 の設定	3161 /64 の設定	説明
回線速度	19,200	19,200	19,200	19,200 (ビット/秒) の回線速度を使用して、システム装置と通信します。
ワード長 (ビット)	8	8	8	データ・ワード長 (バイト) として 8 ビットを選択します。
パリティ	いいえ	いいえ	いいえ	パリティ・ビットは追加されません。ワード長属性と一緒に使用して、8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成します。
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを置きます。

5. ASCII 端末のキーを押して、サービス・プロセッサに ASCII 端末の存在を確認させます。
6. ASMI のログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin と入力します。
7. プロンプトが出されたら、デフォルトのパスワードを変更します。

ASCII 端末のセットアップが完了し、ASMI が開始されました。

8. 続けて 25 ページの『管理コンソールを使用しない場合のサーバー・セットアップの完了』に進みます。

サーバーとハードウェア管理コンソールとのケーブル接続

ハードウェア管理コンソール (HMC) は管理対象システムを制御します。これには、論理区画の管理と Capacity on Demand の使用が含まれます。HMC は、サービス・アプリケーションを使用して管理対象システムと通信し、情報を検出し統合して、分析のために IBM サービスに情報を転送します。

まだ HMC のインストールおよび構成が済んでいない場合は、作業を完了させてください。手順については、インストールおよび構成のシナリオ (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hail/basicmcinstallationandconfigurationtaskflow.htm>) を参照してください。

プロセッサ・ベースのサーバーを管理するには、HMC がバージョン 7 リリース 7.7.0 またはそれ以降である必要があります。HMC のバージョンおよびリリースを表示するには、次の手順を実行してください。

1. ナビゲーション領域で「更新」をクリックします。
2. 作業領域で、「HMC コード・レベル」セクションに表示されている情報を見て記録します。この情報には、HMC のバージョン、リリース、保守レベル、ビルド・レベル、および基本バージョンが含まれています。

サーバーを HMC にケーブル接続するには、次の手順を実行します。

1. 図 19 に示すように、HMC を管理対象システムに直接接続する場合は、HMC のイーサネット・コネクタ 1 を管理対象システムの HMC1 ポートに接続します。

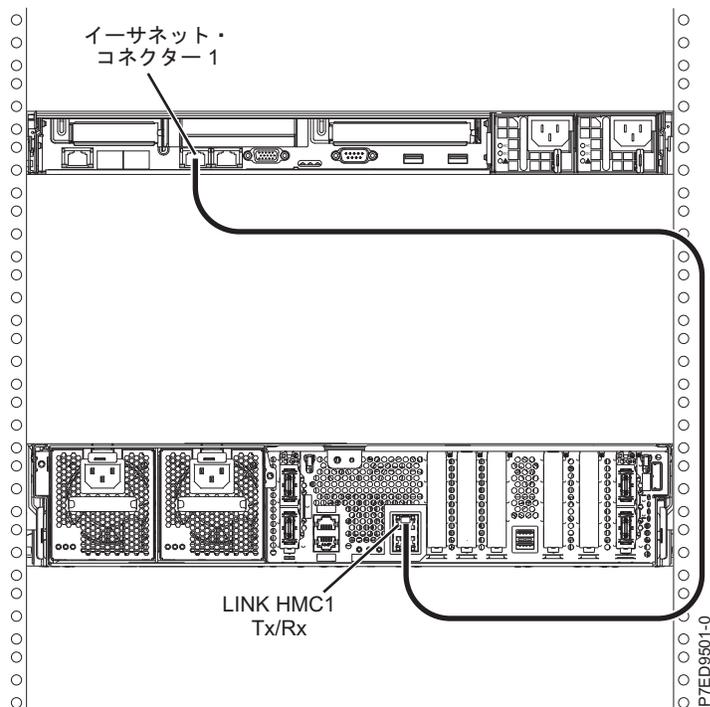


図 19. HMC の管理対象システムへの接続

2. 複数の管理対象システムを管理するために HMC をプライベート・ネットワークに接続する説明の詳細は、HMC ネットワーク接続 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hail/netconhmc.htm>) を参照してください。

注:

- HMC に接続されているスイッチに複数のシステムを接続することもできます。詳しくは、HMC ネットワーク接続 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hail/netconhmc.htm>) を参照してください。
 - スイッチを使用する場合、スイッチのスピードが **auto/auto** に設定されていることを確認してください。サーバーが HMC に直接接続されている場合は、HMC のイーサネット・アダプター・スピードが **auto/auto** に設定されていることを確認してください。メディア速度の設定について詳しくは、メディア速度の設定 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hail/lanmediaspeed.htm>) を参照してください。
3. 2 台目の HMC を管理対象サーバーに接続する場合は、管理対象サーバー上で **HMC2** というラベルの付いたイーサネット・ポートに接続します。

4. サーバーのセットアップを完了します。手順については、23 ページの『ハードウェア管理コンソールを使用する場合のサーバー・セットアップの完了』を参照してください。

サーバーのケーブル接続と Integrated Virtualization Manager へのアクセス

バーチャル I/O サーバー (VIOS) をハードウェア管理コンソール (HMC) がない環境にインストールする場合、VIOSは、インターフェースが Integrated Virtualization Manager (IVM) である管理区画を自動的に作成します。

VIOSを準備およびインストールして、IVMを使用可能にするには、次の手順を実行します。

1. PC または ASCII 端末からサーバー上のシステム・ポートにシリアル・ケーブルを接続します。詳しくは、15 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』を参照してください。
2. 以下のステップを実行します。
 - a. Web インターフェースを使用して Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスする権限があることを確認します。詳しくは、30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』を参照してください。
 - b. ASMI の管理者権限または認証サービス・プロバイダー権限をもっていることを確認します。
 - c. Web ベースの ASMI を使用して、Integrated Virtualization Manager をインストールする区画のタイプに適合するように、以下の設定を変更します。

Linux 区画の場合は、以下の手順を実行して区画のブート・モードを変更します。

- 1) ナビゲーション領域で、「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
 - 3) 「Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「SMS メニューにブート」を選択します。
 - 4) 「設定を保存して電源オン」をクリックします。
 - d. HyperTerminal などのアプリケーションを使用して、PC 上で端末セッションを開き、SMS メニューが表示されるのを待ちます。システム装置と通信するには、回線速度を 19,200 ビット/秒に設定する必要があります。
 - e. Web ベースの ASMI を使用して、サーバーが始動時に操作環境をロードするように、区画ブート・モードを元に戻します。
 - 1) 「電源/再始動制御」を展開します。
 - 2) 「システムの電源オン/オフ」をクリックします。
 - 3) 「Linux 区画モード」ブート・フィールドで、「オペレーティング・システムに進む」を選択します。
 - 4) 「設定の保存」をクリックします。
3. バーチャル I/O サーバー CD または DVD を光ディスク・ドライブに挿入します。
 4. SMS で、次のように CD または DVD をブート・デバイスとして選択します。
 - a. 「ブート・オプションの選択」を選択して、Enter キーを押します。
 - b. 「インストール/ブート・デバイスの選択」を選択し、Enter キーを押します。
 - c. 「CD/DVD」を選択して、Enter キーを押します。
 - d. 光ディスク装置に対応するメディア・タイプを選択して、Enter キーを押します。
 - e. 光ディスク装置に対応する装置番号を選択して、Enter キーを押します。

- f. 「通常ブート」を選択して、SMS を終了することを確認します。
5. バーチャル I/O サーバーをインストールします。
 - a. コンソールを選択して、Enter キーを押します。
 - b. BOS メニューの言語を選択して、Enter キーを押します。
 - c. 「ここでデフォルト設定でインストールを開始」を選択します。
 - d. 「インストールを継続 (Continue with Install)」を選択します。 インストールが完了すると、管理対象システムが再始動し、ASCII 端末にログイン・プロンプトが出されます。
6. IVM をインストール後、ご使用条件の許諾、更新の確認、および TCP/IP 接続の構成により、インストールを完了します。

サーバーとキーボード、ビデオ、およびマウスとのケーブル接続

グラフィックス・カードが存在する場合、システムをブートする前に、キーボード、ビデオ、およびマウス (KVM) をシステムに接続してください。

KVM を接続するには、以下の手順を実行します。

1. システムの背面で、グラフィックス・カードおよび USB のポートを見つけます。コネクタ・コンバーターが必要な場合があります。
2. モニター・ケーブルをグラフィックス・カードに接続します。
3. キーボードとマウスを USB ポートに接続します。
4. コンソールの電源をオンにします。
5. サーバーの電源ケーブルを接続し、オペレーター・パネルの緑色のライトが明滅し始めるのを待ちます。手順については、『電源ケーブルのシステムへの接続』を参照してください。
6. 必要な場合は、オペレーティング・システムをインストールおよび更新します。

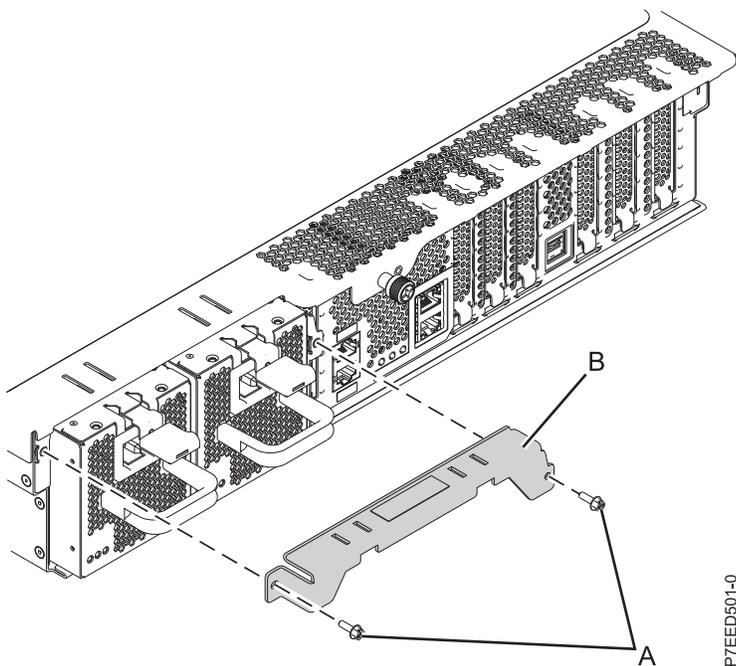
電源ケーブルのシステムへの接続

このセクションの手順を使用して、電源ケーブルをシステムに接続します。

注: 電源ケーブルをシステムに接続する前に、システムのケーブル接続およびコンソールのセットアップを完了しておく必要があります。

電源ケーブルをシステムに接続するには、以下の手順を実行します。

1. 電源装置の配送用ブラケットがあれば取り外します。20 ページの図 20 に示すように、電源装置が元の位置に取り付けられていることを確認します。

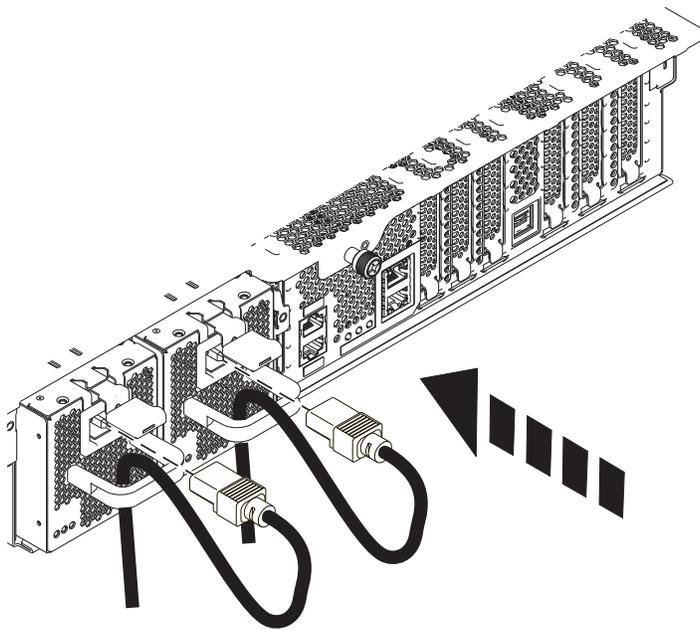


P7EED501-0

図 20. 出荷用ブラケットの取り外し

2. システム装置の背面に向かって、システム電源コードをケーブル保持ブラケットに通して設置します。

注: ケーブルをケーブル保持ブラケットを通して設置するには、電源装置を少し引き出すことが必要な場合もあります。図 21 に示すように、ケーブルをケーブル保持ブラケットを通して設置した後は、電源装置を元の位置に取り付けます。



P7EEB502-0

図 21. 電源コードの配線と接続

3. 電源コードを電源装置に接続します。

注: このシステムは、2 つの電源装置を装備しています。 このシステムを予備電源装置と組み合わせて構成する場合、各電源ケーブルをその電源装置に備わっている電源に接続する必要があります。

4. システムの電源コード、およびすべての接続デバイスの電源コードを交流 (ac) 電源に差し込みます。

注: システムが待機モードであることを確認します。 前面コントロール・パネル上の緑色の状況インジケータが低速で明滅しており、電源装置上の DC Out インジケータ・ライトが明滅しています。 どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を調べてください。 詳しくは、34 ページの『共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード』を参照してください。

5. システムで電力配分装置 (PDU) を使用する場合は、次の手順を実行します。
 - a. システム電源コードを、サーバーと入出力ドロワーから IEC 320 タイプ・コンセントを備えた PDU に接続します。
 - b. PDU 入力電源コードを取り付けて、それを交流 (AC) 電源に差し込みます。

サーバー・セットアップの完了

管理対象システムのインストールを完了するために実行する必要がある作業について詳しく説明します。

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用する場合は、以下の作業を実行します。

1. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。
2. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認します。
3. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。
4. システムが待機モードであることを確認します。 前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識がゆっくりと明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を調べてください。
5. 管理対象システムの電源をオンにします。
6. 区画を作成するか、インポートされたシステム計画をデプロイします。
7. まだインストールされていない場合、オペレーティング・システムをインストールします。

手順については、『ハードウェア管理コンソールを使用する場合のサーバー・セットアップの完了』を参照してください。

管理コンソールがない場合は、以下の作業を実行します。

1. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認し、ASMI を使用して時刻を更新します。
2. システムが待機モードであることを確認します。 前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識がゆっくりと明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を調べてください。
3. 管理対象システムの電源をオンにします。
4. まだインストールされていない場合、オペレーティング・システムをインストールして更新します。
5. 必要に応じて、システム・ファームウェアを更新します。

手順については、25 ページの『管理コンソールを使用しない場合のサーバー・セットアップの完了』を参照してください。

ハードウェア管理コンソールを使用する場合のサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用してサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を実行する必要があります。

POWER7[®] プロセッサ・ベースのシステムを管理するには、HMC がバージョン 7 リリース 7.7.0 またはそれ以降である必要があります。

HMC を使用してサーバー・セットアップを完了するには、次の手順を実行してください。

1. 電源コードを接続します。 詳細については、19 ページの『電源ケーブルのシステムへの接続』を参照してください。
2. システムが待機モードであることを確認します。 前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識がゆっくりと明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合

は、電源コードの接続を調べてください。手順については、34 ページの『共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード』を参照してください。

3. 管理対象システムのパスワードを変更するには、次の手順を実行してください。
 - a. ナビゲーション領域で「**システム管理 > サーバー**」を展開します。
 - b. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - c. オペレーション領域で「**パスワードの更新**」をクリックします。
4. Advanced System Management Interface (ASMI) を使用して、管理対象システムの時刻を更新します。

ASMI をセットアップしてアクセスするには、次の手順を実行してください。

 - a. ナビゲーション領域で「**システム管理 > サーバー**」を展開します。
 - b. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - c. タスク領域で「**操作**」を展開します。
 - d. 「**拡張システム管理 (ASM) の起動**」をクリックします。

ASMI を使用して時刻を変更するには、次の手順を実行してください。

 - a. 「ASMI へようこそ」ペインで、ユーザー ID とパスワードに admin と入力して、「**ログイン**」をクリックします。
 - b. ナビゲーション領域で、「**システム構成**」を展開します。
 - c. 「**時刻**」をクリックします。右側のペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - d. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「**設定の保存**」をクリックします。
 - e. ASMI からログアウトし、ウィンドウを閉じます。
5. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認するには、ナビゲーション領域で「**更新**」をクリックします。ファームウェア情報は、コンテンツ領域に表示されます。
6. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。必要に応じて、ファームウェア・レベルを更新します。
 - a. インストール済みのファームウェア・レベルと使用可能なファームウェア・レベルを比較します。詳しくは、(<http://www.ibm.com/support/fixcentral/>) を参照してください。
 - b. 必要に応じて、管理対象システムのファームウェア・レベルを更新します。ナビゲーション領域で「**更新**」を選択します。
 - c. コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - d. 「**現行リリースのライセンス内部コードの変更**」をクリックします。
7. HMC を使用して管理対象システムの電源をオンにするには、次の手順を実行してください。
 - a. 以下の手順を実行して、論理区画開始ポリシーが「**ユーザー開始**」に設定されていることを確認します。
 - 1) ナビゲーション領域で「**システム管理 > サーバー**」を展開します。
 - 2) コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - 3) タスク領域で「**プロパティ**」をクリックします。
 - 4) 「**電源オン・パラメーター**」タブをクリックします。
 - 5) 「**区画開始ポリシー**」フィールドが「**ユーザー開始**」に設定されていることを確認します。
 - b. 以下の手順を実行して、管理対象システムの電源をオンにします。
 - 1) ナビゲーション領域で「**システム管理 > サーバー**」を展開します。

- 2) コンテンツ領域で管理対象システムを選択します。
 - 3) 「操作 > 電源オン」をクリックします。
 - 4) 電源オン・オプションを選択して「OK」をクリックします。
8. 区画を作成するか、インポートされたシステム計画をデプロイします。
- 区画の作成手順については、HMC を使用した区画化 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hatl/iphblparwithhmcp6.htm>) を参照してください。
 - システム計画のデプロイ手順については、HMC を使用したシステム計画のデプロイ (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hc6l/iphc6deploysysplanp6.htm>) を参照してください。
9. オペレーティング・システムをインストールおよび更新します。
- Linux オペレーティング・システムのインストール手順については、PowerLinux サーバーにおける Linux のインストール (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/lnxinfo/v3r0m0/topic/liaae/lcon_installing_linux_on_system_p5.htm) を参照してください。
 - バーチャル I/O サーバー (VIOS) オペレーティング・システムのインストール手順については、VIOS のインストール (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hchl/iphchinstallvios.htm>) を参照してください。

管理コンソールを使用しない場合のサーバー・セットアップの完了

ハードウェア管理コンソール (HMC) を使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、以下の作業を実行する必要があります。

管理コンソールを使用せずにサーバー・セットアップを完了するには、以下の手順を実行します。

1. 電源コードを接続します。詳細については、19 ページの『電源ケーブルのシステムへの接続』を参照してください。
2. システムが待機モードであることを確認します。前面コントロール・パネルの緑色の電源状況標識がゆっくりと明滅し、電源装置の DC OUT 表示ライトが明滅しています。どの標識も明滅していない場合は、電源コードの接続を調べてください。詳細については、34 ページの『共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード』を参照してください。
3. 管理対象システムのファームウェア・レベルを確認し、時刻を更新するには、次の手順を実行してください。
 - a. Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスします。詳しくは、管理コンソールを使用しない ASMI へのアクセス (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbyl/connect_asmi.htm) を参照してください。
 - b. 「ASMI へようこそ」ペインで、著作権文の下の右上隅に表示される既存のサーバー・ファームウェアのレベルをメモします。
 - c. 時刻を更新します。ナビゲーション領域で、「システム構成」を展開します。
 - d. 「時刻」をクリックします。右側のペインに、現在の日付 (月、日、年) と時刻 (時、分、秒) を示す書式が表示されます。
 - e. 日付値、時刻値、またはその両方を変更して、「設定の保存」をクリックします。
4. ディスク・ドライブおよび PCI アダプターを接続します (該当する場合)。詳しくは、ディスク・ドライブ (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hall/p7halkickoff.htm>)、および PCI アダプター (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hakl/p7hak_pciadapters_front_71x_73xl.htm) を参照してください。
5. HMC または ASMI によって管理されていないシステムを始動するには、次の手順を実行します。

- a. 管理対象システムの前面ドアを開きます。
 - b. コントロール・パネル上の電源ボタンを押します。手順については、システムの電源オン/オフ (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbyl/poweronoff.htm>) を参照してください。
6. 必要な場合は、オペレーティング・システムをインストールおよび更新します。
- Linux オペレーティング・システムのインストール手順については、PowerLinux サーバーにおける Linux のインストール (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/lxinfo/v3r0m0/topic/liaae/lcon_Installing_Linux_on_System_p5.htm) を参照してください。
 - バーチャル I/O サーバー (VIOS) オペレーティング・システムのインストール手順については、VIOS のインストール (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hchl/iphchinstallvios.htm>) を参照してください。
7. 必要に応じて、システム・ファームウェアを更新します。
- Linux オペレーティング・システムを介してファームウェア修正を入手する手順については、管理コンソールを使用しない Linux からのサーバー・ファームウェア修正の入手 (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7ha5l/fix_firm_no_hmc_aix.htm) を参照してください。
 - VIOS を使用している場合は、インターネット接続を使用したバーチャル I/O サーバーのファームウェアおよびデバイス・マイクロコードの更新 (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7ha5l/fix_virtual_firm_ivm.htm) を参照してください。

参照情報

このセクションには、8246-L1D または 8246-L1T の設置に関連する追加の情報が記載されています。

ラック・マウント型サーバーおよびファクトリー・ラック型サーバーの取り付け

ラック・マウント型サーバーおよびファクトリー・ラック型サーバーの取り付けについて説明します。

注: 配送品に入っているねじはドロワーをラックに固定するために使用します。ラックとドロワーを別の場所に移動する場合、または振動や地震が起きやすい場所に設置する場合は、これらのねじを使用してください。

ラック・マウント型サーバーの取り付け

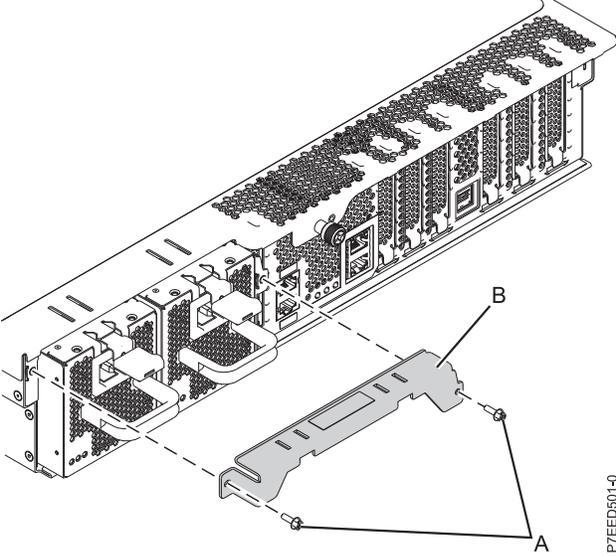
ラック・マウント型サーバーを取り付ける必要がある場合があります。

ラック・マウント型サーバーを取り付けるには、以下のハイレベルな作業を実行します。

表 3. ラックへのサーバーの設置作業

作業	関連情報の入手先
前提条件を確認してください。	手順については、1 ページの『8246-L1D または 8246-L1T システムの取り付けの前提条件』を参照してください。
品目の確認を実行します。	手順については、1 ページの『開始する前に』を参照してください。
ラックがあることを確認します。	最初にラックを設置する必要があります。まだラックを設置していない場合は、ラックの設置 (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbfl/installrack.htm) を参照してください。
レールの取り付け位置を決定し、取り付け位置にマークを付けます。	取り付け位置を決定し、取り付け位置にマークを付けるには、3 ページの『位置の決定』および 4 ページの『位置のマーク付け』を参照してください。
取り付け用ハードウェアをラックに取り付けます。	取り付け用ハードウェアをラックに取り付けるには、5 ページの『8246-L1D または 8246-L1T の取り付け用ハードウェアのラックへの取り付け』を参照してください。
システムをラックに取り付けます。	システムをラックに取り付けるには、8 ページの『Installing the 8246-L1D または 8246-L1T システムのラックへの取り付け』を参照してください。
ケーブル・マネジメント・アームの取り付け。	ケーブル・マネジメント・アームを取り付けるには、10 ページの『ケーブル・マネジメント・アームの取り付け』を参照してください。

表 3. ラックへのサーバーの設置作業 (続き)

作業	関連情報の入手先
<p>システムを取り付け用ハードウェアに取り付けた後で、システムの後部左側にある、電源装置を保護する配送用ブラケットを取り外します。</p>	<p>配送用ブラケットの取り外しを行うには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ねじを外します。 2. 配送用ブラケットを取り外すことができるように、電源装置を外に少し引き出します。 3. 電源装置を取り付け直します。 4. 拡張装置がある場合は、電源装置を保護する配送用ブラケットを取り外します。  <p style="text-align: right; font-size: small;">P7EED501-0</p>
<p>拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターを取り付けて接続します (該当する場合)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスク・ドライブおよび PCI アダプターを移動する、または取り付ける前に、システム・プランをお読みください。 • システムの電源をオンにしないでください。コンソールをセットアップする際に、システムの電源をオンにする指示がでます。 	<p>手順については、13 ページの『拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターの接続』を参照してください。</p>
<p>システムをケーブル接続し、コンソール、インターフェース、または端末をセットアップします。</p>	<p>システムをケーブル接続するには、15 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』を参照してください。</p>
<p>電源ケーブルを接続し、電源を供給します。</p>	<p>手順については、19 ページの『電源ケーブルのシステムへの接続』を参照してください。</p>
<p>サーバーのセットアップを完了します。</p>	<p>手順については、23 ページの『サーバー・セットアップの完了』を参照してください。</p>

ファクトリー・ラック型サーバーの取り付け

ファクトリー・ラック型サーバーを取り付ける必要がある場合があります。

既に工場でラックに取り付け済みのサーバーを設置する場合は、以下のハイレベルな作業を実行してください。

表4. ファクトリー・ラック型サーバーの設置作業

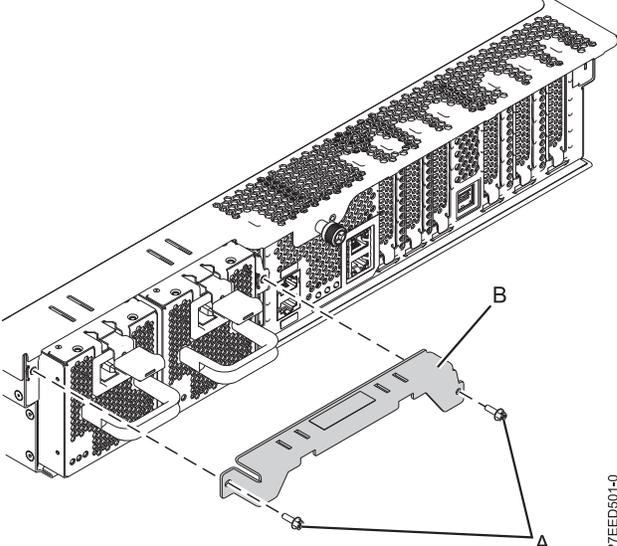
作業	関連情報の入手先
前提条件を確認してください。	手順については、1 ページの『8246-L1D または 8246-L1T システムの取り付けの前提条件』を参照してください。
品目の確認を実行します。	手順については、1 ページの『開始する前に』を参照してください。
システムを取り付け用ハードウェアに取り付けた後で、システムの後部左側にある、電源装置を保護する配送用ブラケットを取り外します。	<p>配送用ブラケットの取り外しを行うには、次のステップを実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ねじを外します。 2. 配送用ブラケットを取り外すことができるように、電源装置を外に少し引き出します。 3. 電源装置を取り付け直します。 4. 拡張装置がある場合は、電源装置を保護する配送用ブラケットを取り外します。  <p style="text-align: right; font-size: small;">PTEED501-0</p>
<p>拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターを取り付けて接続します (該当する場合)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ディスク・ドライブおよび PCI アダプターを移動する、または取り付ける前に、システム・プランをお読みください。 • システムの電源をオンにしないでください。コンソールをセットアップする際に、システムの電源をオンにする指示がでます。 	手順については、13 ページの『拡張装置、ディスク・ドライブ、および PCI アダプターの接続』を参照してください。
システムをケーブル接続し、コンソール、インターフェース、または端末をセットアップします。	システムをケーブル接続するには、15 ページの『サーバーのケーブル接続とコンソールのセットアップ』を参照してください。
電源ケーブルを接続し、電源を供給します。	手順については、19 ページの『電源ケーブルのシステムへの接続』を参照してください。

表 4. ファクトリー・ラック型サーバーの設置作業 (続き)

作業	関連情報の入手先
サーバーのセットアップを完了します。	手順については、23 ページの『サーバー・セットアップの完了』を参照してください。

コンソールのセットアップに関するサポート情報

Web ブラウザーを使用した Advanced System Management Interface へのアクセス、PC またはノートブックでの IP アドレスの設定、あるいは接続のトラブルシューティングが必要な場合は、この情報を使用します。

Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス

システムが HMC で管理されていない場合、PC またはノートブックをサーバーに接続して、Advanced System Management Interface (ASMI) にアクセスすることができます。サーバーの工場出荷時のデフォルト・アドレスに一致するように、PC またはノートブックの Web ブラウザー・アドレスを構成する必要があります。

ASMI に直接またはリモートでアクセスするために Web ブラウザーをセットアップするには、以下の手順を実行してください。

1. サーバーの電源がオンになっていない場合は、次の手順を実行します。
 - a. 電源コードをサーバーに接続します。
 - b. 電源コードのプラグを電源に差し込みます。
 - c. コントロール パネルに 01 と表示されるまで待ちます。01 が表示される前に、一連の進行コードが表示されます。

注:

- コントロール・パネルのライトが緑色の場合は、システムの電源はオンになっています。
- コントロール・パネルを表示するには、青色のスイッチを左側に押してコントロール・パネルを完全に引き出してから引き下ろします。

重要: この手順で後ほど指示されるまで、イーサネット・ケーブルを HMC1 ポートまたは HMC2 ポートのいずれにも接続しないでください。

2. Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 がインストールされた PC またはノートブックを使用して、サーバーに接続します。

注: この資料を表示している PC またはノートブックに 2 つのイーサネット接続がない場合、ASMI にアクセスするには、別の PC またはノートブックがサーバーに接続されている必要があります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がない場合、この PC またはノートブックが ASMI コンソールになります。

ネットワークにサーバーを接続する計画がある場合は、この PC またはノートブックは、セットアップの目的のみで一時的にサーバーに直接接続します。セットアップ後、Netscape 9.0.0.4、Microsoft Internet Explorer 7.0、Opera 9.24、あるいは Mozilla Firefox 2.0.0.11 を実行しているネットワーク上の任意の PC またはノートブックを ASMI コンソールとして使用することができます。

注: 以下の手順を実行して Microsoft Internet Explorer の TLS 1.0 オプションを使用不可にし、Windows XP で実行している Microsoft Internet Explorer 7.0 を使用して ASMI にアクセスします。

- a. Microsoft Internet Explorer の「ツール」メニューから、「インターネット オプション」を選択します。
 - b. 「インターネット オプション」ウィンドウの「詳細設定」タブをクリックします。
 - c. 「TLS 1.0 を使用する」チェック・ボックス（「セキュリティ」カテゴリー）をクリアして、「OK」をクリックします。
3. イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の HMC1 というラベルのイーサネット・ポートに接続します。HMC1 が既に使用されている場合は、イーサネット・ケーブルを、PC またはノートブックから管理対象システムの背面の HMC2 というラベルのイーサネット・ポートに接続します。

重要: システムが電源オフ・スタンバイになる前にイーサネット・ケーブルをサービス・プロセッサに接続すると、サービス・プロセッサのネットワーク構成テーブルに表示される IP アドレスが有効でなくなる場合があります。詳しくは、34 ページの『IP アドレスの修正』を参照してください。

4. 表 5 を使用して、PC またはノートブックでサービス・プロセッサの IP アドレスを設定するために必要な情報を判別し、記録します。PC またはノートブックのイーサネット・インターフェースは、サービス・プロセッサと同じサブネット・マスク内に構成して、相互に通信できるようにする必要があります。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合、その PC またはノートブックの IP アドレスは 169.254.2.140 とすることができ、サブネット・マスクは 255.255.255.0 になります。ゲートウェイ IP アドレスを PC またはノートブックと同じ IP アドレスに設定します。

表 5. POWER7 プロセッサ・ベースのシステムのサービス・プロセッサに関するネットワーク構成情報

POWER7 プロセッサ・ベースのシステム	サーバー・コネクター	サブネット・マスク	サービス・プロセッサの IP アドレス	PC またはノートブックの IP アドレスの例
サービス・プロセッサ A	HMC1	255.255.255.0	169.254.2.147	169.254.2.140
	HMC2	255.255.255.0	169.254.3.147	169.254.3.140
サービス・プロセッサ B (取り付けられている場合)	HMC1	255.255.255.0	169.254.2.146	169.254.2.140
	HMC2	255.255.255.0	169.254.3.146	169.254.3.140

5. 表の値を使用して、PC またはノートブックで IP アドレスを設定します。詳しくは、32 ページの『PC またはノートブックでの IP アドレスの設定』を参照してください。
6. Web ブラウザーを使用して ASMI にアクセスするには、次の手順を実行してください。
 - a. 表 5 を使用して、PC またはノートブックが接続されているサービス・プロセッサのイーサネット・ポートの IP アドレスを判別します。
 - b. ご使用の PC またはノートブックの Web ブラウザーの「アドレス」フィールドに、その IP アドレスを入力して Enter キーを押します。例えば、PC またはノートブックを HMC1 に接続した場合は、PC またはノートブックの Web ブラウザーに <https://169.254.2.147> と入力します。

注: ステップ 3 でイーサネット・ケーブルがサービス・プロセッサに差し込まれた後、ASMI ログイン画面が Web ブラウザーに表示されるまでに、最大で 2 分かかることがあります。この間にコントロール・パネル機能 30 を使用してサービス・プロセッサの IP アドレスを表示すると、不完全または不正確なデータが表示されます。

7. ログイン画面が表示されたら、ユーザー ID およびパスワードに admin を入力します。
8. プロンプトが出されたら、デフォルトのパスワードを変更します。

9. 次のオプションから選択します。

- PC またはノートブックをネットワークに接続することを計画していない場合、この手順はここで終了です。この時点で、時刻の変更または高度の設定などのタスクを実行できます。
- PC またはノートブックをネットワークに接続する計画がある場合は、HMC を使用しない ASMI へのアクセス (http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hbyl/connect_asmi.htm) を参照してください。

PC またはノートブックでの IP アドレスの設定

Web ブラウザーから ASMI にアクセスするには、最初に PC またはノートブックで IP アドレスを設定する必要があります。以下の手順は、Linux オペレーティング・システムおよび Microsoft Windows XP、2000、および Vista オペレーティング・システムが稼働している PC またはノートブックで IP アドレスを設定する方法について説明しています。

以下の手順を実行するには、30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックのステップ 4 (31 ページ) で記録した情報が必要になります。

Linux

Linux オペレーティング・システムで IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. root ユーザーとしてログオンしていることを確認します。
2. 端末セッションを開始します。
3. コマンド・プロンプトで `ifconfig -a` と入力します。
重要: 変更を加える前に、現在の設定および `eth1` または `eth2` インターフェースを記録または印刷します。ASMI Web インターフェースのセットアップ後に PC またはノートブックを切り離す場合に、この情報を使用して、これらの設定を復元できます。
4. `ifconfig ethx xxx.xxx.xxx.xxx netmask xxx.xxx.xxx.xxx` と入力します。ここで、`xxx.xxx.xxx.xxx` の値は 30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のタスクで記録した値です。`ethx` をステップ3で示されているインターフェースに置き換えます。
5. Enter キーを押します。

Windows XP および Windows 2000

Windows XP および Windows 2000 で IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 > 「コントロール パネル」をクリックします。
2. コントロール パネルで「ネットワーク接続」をダブルクリックします。
3. 「ローカル エリア接続」を右クリックします。
4. 「プロパティ」をクリックします。
5. 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」を選択して「プロパティ」をクリックします。

重要: 変更を加える前に現在の設定を記録しておきます。ASMI Web インターフェースのセットアップ後に PC またはノートブックを切り離す場合に、この情報を使用して、これらの設定を復元します。

注: 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」がリストに表示されない場合は、以下の手順を実行してください。

- a. 「インストール」をクリックします。
- b. 「プロトコル」を選択し、次に「追加」をクリックします。
- c. 「インターネット プロトコル (TCP/IP)」を選択します。

- d. 「OK」をクリックして「ローカル エリア接続のプロパティ」ウィンドウに戻ります。
6. 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
7. 30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックで記録した値を使用して、「IP アドレス」、「サブネット マスク」および「デフォルト ゲートウェイ」フィールドに入力します。
8. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。 PC を再始動する必要はありません。

Windows Vista

Windows Vista で IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 > 「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「クラシック表示」が選択されていることを確認します。
3. 「ネットワークと共有センター」を選択します。
4. 「パブリック・ネットワーク」領域で「状態の表示」を選択します。
5. 「プロパティ」をクリックします。
6. 「セキュリティ」ウィンドウが表示された場合は、「続行」をクリックします。
7. 「インターネット プロトコル バージョン 4」を強調表示して「プロパティ」をクリックします。
8. 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
9. 30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックで記録した値を使用して、「IP アドレス」、「サブネット マスク」および「デフォルト ゲートウェイ」フィールドに入力します。
10. 「OK」 > 「閉じる」 > 「閉じる」をクリックします。

Windows7

Windows 7 で IP アドレスを設定するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」 > 「コントロール パネル」 > 「ネットワークとインターネット」 > 「ネットワークと共有センター」をクリックします。
2. 「アダプター設定の変更 (Change adapter settings)」をクリックして、ネットワーク・アダプターを選択します。
3. アダプターを右クリックして「プロパティ」を選択し、プロパティ・ウィンドウを開きます。
4. 「インターネット・プロトコル バージョン 4 (TCP/IPv4)」を選択し、「プロパティ」をクリックします。
重要: 変更を加える前に現在の設定を記録しておきます。 ASMI Web インターフェースのセットアップ後に PC またはノートブックを切り離す場合に、この情報を使用して、これらの設定を復元します。
5. 「次の IP アドレスを使う」を選択します。
6. 30 ページの『Web ブラウザーを使用した ASMI へのアクセス』のトピックで記録した値を使用して、「IP アドレス」、「サブネット マスク」および「デフォルト ゲートウェイ」フィールドに入力します。
7. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ウィンドウで「OK」をクリックします。 PC を再始動する必要はありません。

IP アドレスの修正

システムが電源オフ・スタンバイになる前にイーサネット・ケーブルをサービス・プロセッサに接続すると、サービス・プロセッサのネットワーク構成テーブルに表示される IP アドレスが有効でなくなる場合があります。

ケーブルが取り付けられているが、どこにも接続されていない場合は、何も起こりません。ネットワークに接続されているイーサネット・ケーブルがそのポートに接続されている状態でシステムの電源がオンになると、アドレスが変更される可能性があります。ネットワーク接続を使用して ASMI にアクセスできない場合は、以下のタスクのいずれかを実行する必要があります。

- シリアル・ケーブルを使用して ASCII 端末をサービス・プロセッサに接続します。詳しくは、15 ページの『サーバーと ASCII 端末とのケーブル接続』を参照してください。
- 現在の IP アドレスを判別します。サービス・プロセッサの現在の IP アドレスの判別について詳しくは、機能 30: サービス・プロセッサの IP アドレスおよびポートの場所 (<http://publib.boulder.ibm.com/infocenter/systems/scope/hw/topic/p7hb5l/func30.htm>) を参照してください。
- サービス・プロセッサのリセット・トグル・スイッチを、現在の位置から反対の位置に移動します。この作業を完了するには、サービス・プロセッサを取り外して、再取り付けする必要があります。詳細については、次のレベルのサポートにお問い合わせください。

共通システム・アテンション LED およびシステム参照コード

取り付けに関する共通の問題からの回復について、LED およびシステム参照コード (SRC) 情報を検索します。

以下の表では、LED ステータスの動作および各動作の意味について説明しています。

表 6. 取り付け関連の共通システム・アテンション LED

前面の電源ステータス LED (緑色)	AC IN (緑色)	DC OUT (緑色)	障害 (黄色)	説明
オン	オン	オン	オフ	システムに電力が供給され、システムの電源がオンになっています。
明滅	オン	明滅	オフ	システムに電力が供給されています。
明滅	オフ	明滅	オフ	電源装置の 1 つに電力が供給されていませんが、2 番目の電源装置には電力が供給されており、システムは待機モードになっています。
オン	オフ	明滅	オフ	電源装置の 1 つに電力が供給されていませんが、2 番目の電源装置には電力が供給されており、システムは電源オンになっています。
オフ	オフ	オフ	オフ	どちらの電源装置にも電力が供給されていません。
明滅	オン	オフまたは明滅	オン	電力は供給されていますが、電源装置が正常に機能していません。システムは待機モードになっています。
オン	オン	オフまたは明滅	オン	電力は供給されていますが、電源装置が正常に機能していません。システムは電源オンになっています。

表 6. 取り付け関連の共通システム・アテンション LED (続き)

前面の電源ステータス LED (緑色)	AC IN (緑色)	DC OUT (緑色)	障害 (黄色)	説明
明滅	オン	オン	オン	110 ボルトの電圧がかかっています。このシステムには 220 ボルトの電圧が必要です。

以下の表では、取り付け時に表示される SRC について説明しています。

表 7. 取り付け関連の共通 SRC

SRC	エラーの説明	回復手順
1000xxx 1100xxx 509Axxx 509Dxxx 50A4xxx 50ADxxx 50B1xxx	AC 入力と電源装置の接続	<ol style="list-style-type: none"> 以下の場所で、電源コードが正しく接続されているか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> ドロワー 電力配分装置 (PDU) (該当する場合) バッテリー・バックアップ装置 (BBU) (該当する場合) 入力ソースの電源コンセント 電源装置が所定の位置に取り付けられてラッチで固定されているか確認してください。
11002613	電源電圧がマッチングしていません。	必ず正しい電源電圧を使用してください。ご使用のサーバーに必要な電源電圧について詳しくは、ご使用のサーバーの仕様書を参照してください。
先頭が [§] 27xxx、28xx、57xxx で始まり、 末尾が [§] xxxx3120、xxxx3121 で終わる。	ファイバー・チャネル・ポートの障害	これらのエラーは通常、使用されていないポートが原因になります。すべてのポートにケーブルまたは折り返しプラグが取り付けられている必要があります。ポートにケーブルが取り付けられていない場合は、使用されていない各ポートに必ず折り返しプラグを取り付けてください。ファイバー・チャネルのフィーチャー・コードがオーダーされると、折り返しプラグが自動的に出荷されます。
B1A38B24	ネットワーク構成	正しい IP アドレスが入力されているか確認してください。

ケーブルとシステムの配置を統合するベスト・プラクティス

このガイドラインに従うことにより、ご使用のシステムおよびそのケーブル類での保守およびその他の操作に最適なスペースを確保することができます。また、ご使用のシステムを正しくケーブル接続し、適切なケーブルを使用するためのガイドラインも提供します。

次のガイドラインは、ご使用のシステムをインストール、マイグレーション、再配置、またはアップグレードする場合の、ケーブル接続情報を提供します。

- 可能であれば、ラックの下部および上部でケーブルの配線経路のために十分なスペースができるように、ドロワーをラック内に配置します。
- 短い方のドロワーを、ラック内で長いドロワーと長いドロワーの間に置かないでください (例えば、24 インチのドロワー 2 個の間に 19 インチのドロワーを置くなど)。

- たとえば並行保守用 (対称型マルチプロセッシング・ケーブル) などの、特定のケーブルのプラグ接続が必要な場合は、そのケーブルに適切なラベルを付け、順序をメモします。
- ケーブルの配線を容易にするために、ケーブルは以下の順序で取り付けてください。
 1. システム電源制御ネットワーク (SPCN) ケーブル
 2. 電源ケーブル
 3. 通信ケーブル (シリアル接続 SCSI、InfiniBand、リモート入出力、および PCI Express)

注: 通信ケーブルの取り付けと配線は、直径が最も小さいものから始めて、直径が最大のものに至るように進めます。この手順は、通信ケーブルをケーブル管理アームに取り付ける際と、通信ケーブルをラック、ブラケット、その他のケーブル管理用に提供されるフィーチャーに保持する際に適用されます。

- 通信ケーブルの取り付けと配線は、直径が最も小さいものから始めて、直径が最大のものに至るように進めます。
- SPCN ケーブルには、最奥部のケーブル管理ブリッジ LANCE (Local Area Network Controller for Ethernet) を使用します。
- 電源ケーブルおよび通信ケーブルには、中間のケーブル管理ブリッジ LANCE を使用します。
- ケーブル管理ブリッジ LANCE の最外部の列は、ケーブルを配線する時に使用できます。
- 余った SPCN ケーブルおよび電源ケーブルを管理するために、ラック側面のケーブル・レースウェイを使用します。
- ラックの上部には、4 つのケーブル管理ブリッジ LANCE があります。これらのブリッジ LANCE を使用して、ケーブルをトップの片側から他方の側へ、可能であればラックの上部を通して配線します。このような配線経路により、ラック下部にあるケーブル出口の開閉部を、ケーブルの束が塞いでしまうことを避けるのに役立ちます。
- システムに添付されているケーブル管理ブラケットを使用して、並行保守の配線経路を維持します。
- 通信ケーブル (SAS、IB、RIO、および PCIe) の場合、最小曲げ直径 101.6 mm (4 インチ) を維持します。
- 電源ケーブルの場合、最小折り曲げ直径 50.8 mm (2 インチ) を維持します。
- SPCN ケーブルの場合、最小折り曲げ直径 25.4 mm (1 インチ) を維持します。
- 各 Point-to-Point 接続では、最短のケーブルを使用します。
- ドロワーの背面を横切ってケーブルを配線しなければならない場合は、ドロワーの保守が行えるように、ケーブル上のテンションを小さくするのに十分な遊びを残します。
- ケーブルを配線する時は、電力配分装置 (PDU) 上の電源接続周辺に十分な遊びを残し、壁から PDU への電源コードが PDU に接続できるようにします。
- 必要な場合は、面ファスナーを使用します。

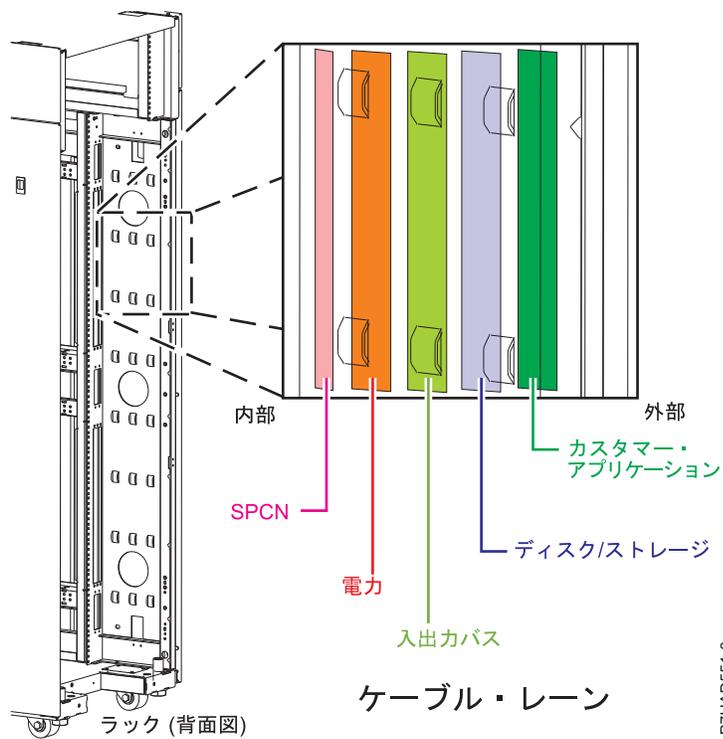


図 22. ケーブル管理ブリッジ LANCE

ケーブルの曲げ半径

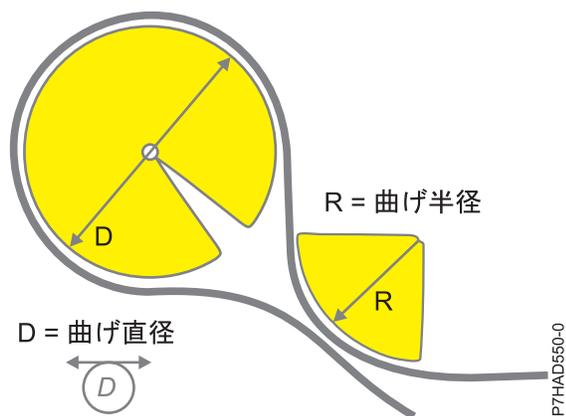


図 23. ケーブルの曲げ半径

関連情報:

 POWER7 770/780 Cabling guide

特記事項

本書は米国が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、製造元の担当者にお尋ねください。本書で、製造元の製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、このことは当該製品、プログラム、またはサービスだけが使用可能であることを意味するものではありません。これらの製品、プログラム、またはサービスに代えて、製造元の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、製造元によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品、プログラムまたはサービスを使用した場合の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

製造元は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む) を所有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、製造元に書面にてご照会ください。

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。本書は特定物として「現存するまま」の状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。製造元は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において製造元所有以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様自身の責任でご使用ください。

製造元は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様になんら義務も負わせない適切な方法で、使用もしくは配布することがあります。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

製造元以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。製造元は、それらの製品のテストを行っておりません。したがって、製造元以外の他社の製品に関する実行性、互換性、またはその他の損害賠償請求については確認できません。製造元以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

製造元の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

表示されている製造元の価格は製造元が小売り価格として提示しているもので、現行価格であり、通知なしに変更されるものです。卸価格は、異なる場合があります。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この情報をソフトコピーでご覧になっている場合は、写真やカラーの図表は表示されない場合があります。

本書に示されている図や仕様は、製造元の書面による許可を得ずにその一部または全部を複製してはいけません。

製造元は、指定された特定のマシンを対象として本書を作成しています。その他の使用および使用結果については、製造元は何ら保証責任を負いません。

製造元のコンピューター・システムには、破壊または損失したデータが検出されない危険性を減少するために設計されたメカニズムが含まれています。しかし、この危険をゼロにすることはできません。不意の停電によるシステムの休止やシステム障害、電力の変動または停電、もしくはコンポーネント障害を経験するユーザーは、停電または障害が起きた時刻もしくはその近辺で行われたシステム操作とセーブまたは転送されたデータの正確性を検証する必要があります。さらに、ユーザーはそのような不安定で危機的な状況で操作されたデータを信頼する前に、独自のデータ検証手順を確立する必要があります。ユーザーはシステムおよび関連ソフトウェアに適用できる更新情報または修正がないか、定期的に製造元の Web サイトをチェックする必要があります。

認定ステートメント

本製品は、お客様の国で、いかなる方法においても公共通信ネットワークのインターフェースへの接続について認定されていない可能性があります。そのような接続を行うには、事前に法律によるさらなる認定が必要です。ご不明な点がある場合は、IBM 担当員または販売店にお問い合わせください。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corp. の商標です。他の製品名およびサービス名は、IBM または各社の商標です。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml の「Copyright and trademark information」をご覧ください。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

電波障害自主規制特記事項

VCCI クラス A 情報技術装置

この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

VCCI クラス B 情報技術装置

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。 VCCI-B

使用条件

これらの資料は、以下の条件に同意していただける場合に限りご使用いただけます。

適用可能性: これらの条件は、IBM Web サイトのすべてのご利用条件に追加されるものです。

個人使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、非商業的な個人による使用目的に限り複製することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずに、これらの資料またはその一部について、二次的著作物を作成したり、配布（頒布、送信を含む）または表示（上映を含む）することはできません。

商業的使用: これらの資料は、すべての著作権表示その他の所有権表示をしていただくことを条件に、お客様の企業内に限り、複製、配布、および表示することができます。ただし、IBM の明示的な承諾を得ずにこれらの資料の二次的著作物を作成したり、お客様の企業外で資料またはその一部を複製、配布、または表示したりすることはできません。

権利: ここで明示的に許可されているもの以外に、資料や資料内に含まれる情報、データ、ソフトウェア、またはその他の知的所有権に対するいかなる許可、ライセンス、または権利を明示的にも黙示的にも付与するものではありません。

資料の使用が IBM の利益を損なうと判断された場合や、上記の条件が適切に守られていないと判断された場合、IBM はいつでも自らの判断により、ここで与えた許可を撤回できるものとさせていただきます。

お客様がこの情報をダウンロード、輸出、または再輸出する際には、米国のすべての輸出入関連法規を含む、すべての関連法規を遵守するものとします。

IBM は、これらの資料の内容についていかなる保証もしません。これらの資料は、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任なしで提供されます。



部品番号: 00L5180

Printed in USA

GI88-4296-01



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町19-21

(1P) P/N: 00L5180

